

—1992, April—

鹿児島大学生物研究会々誌

LEBEN

第 22 号

鹿児島大学学友会生物研究会

巻頭言

米沢 俊彦

目まぐるしく時間が流れる今日、波に揺られながら南の島へ渡り、豊かな自然の中で煩雑な日常を忘れることのできる日々は、私にとって至上の贅沢に他なりません。昼間は強い陽ざしの下、自分の足で心ゆくまで歩き回り、夜は満天の空に輝く星を見上げながら仲間たちとその日の出来事を語り合う。こんなひとときは自分にとってまさに夢のようです。

私達のサークルは南西諸島で合宿を行うことが多く、私もこのサークルに入ってから二年間に幾つもの島々を訪れました。島によって気候も違えば人情も異なります。島ごとに様々な人に出会い、独特の風習に接する機会は貴重な体験となることでしょう。島の人々の言葉には、毎日をそこで暮らし、その風土に精通したものにしか語ることのできない、生きぬくための知恵や古くからの言い伝え等、私たちにとって全く新鮮なものが詰め込まれています。短い滞在期間中に少しでも地元の方々と交流し、親睦を深めることができれば、と思っています。

ところで最近、環境問題が話題にのぼることが多くなりましたが、確かに様々な場所で異様な光景に遭遇します。信じられないような山奥に砂防ダムが建設されていたり、徹底的に伐採され木一本残っていない山があったり、原形をとどめないまでに山を崩した採石場があったりしたりするのは驚かされます。自然と協調することを忘れ、人間の営みと自然とを天秤にかけた二者択一的な選択の結果生じた傷痕はあまりにも大きすぎます。私達の活動も自然に至近距離で触れることを前提としているため、少なからず生態系に影響を及ぼしているのは事実です。採集の意味、標本の意義を今一度考え直してみることも今後の活動のために必要な時期が来ているのかもしれませんが。ただ調査や研究の名を採集の免罪符にだけはしたくないというのが正直な気持ちです。

奪った生命や傷つけた自然になんらかの形で報いることができるようにと願い今年もここにL E B E Nを発行いたしました。1991年、私達の軌跡とともに、その瞬間そこに存在した生物たちの営みを片鱗だけでも汲み取っていただければ幸いです。

最後になりましたが、我々の活動を支えてくださった方々、いろいろな場所でお世話になった皆様方へこの場を借りてお礼申し上げます。

目 次

巻頭言	米沢俊彦
● 1991年トカラ列島春旅行の報告	米沢俊彦 1
・ 宝島	永田武志 2
・ 中之島の蝶	金井賢一 9
● 1991年高隈春合宿の報告	小崎ジュン・濱田しおり 11
・ 蝶の採集記録	東 幸希 12
・ トンボの採集記録	牛ノ濱孝 14
● 1991年奄美大島夏合宿の報告	中村理樹 15
・ 蝶の採集記録	桐野敦子 17
・ 甲虫の採集記録	小野雅幸・藤田 寛 25
・ トンボの採集記録	牛ノ濱孝 29
・ 植物の観察報告	泊信義・小崎ジュン・坂口志保 30
● 1991年屋久島秋合宿の報告	堂園隆男・光永佳奈枝 35
・ 蝶の採集記録	大迫正規 37
● 1991年与論島の蝶	金井賢一 40
● 1991年鹿児島県本土の迷蝶	金井賢一編 45
● 〔短報〕	
・ ミナミコモンマダラ，鹿児島市の記録	桐野敦子 46
・ ニシムネアカムネアリの羽アリの飛翔	濱田しおり 47
・ タイリクバラタナゴを永田川で採集	米沢俊彦 47
・ オニヌマエビを薩摩半島で採集	米沢俊彦 48
● 会員名簿	49
● 編集後記	中村理樹 50

1991年トカラ列島春旅行の報告

米沢 俊彦

1991年3月13日から3月24日まで生物研究会の春旅行でトカラ列島の宝島と中之島を訪れたので、以下に報告する。

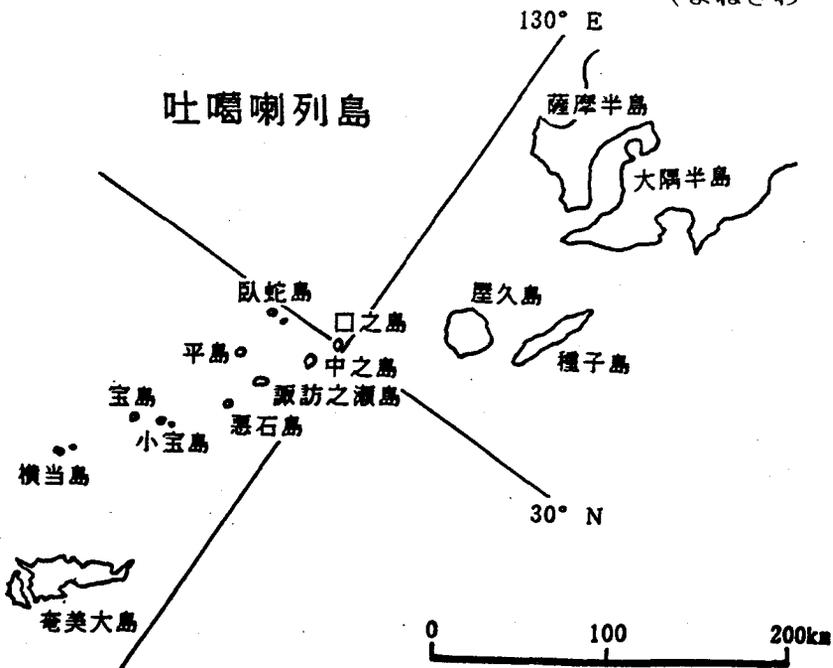
○トカラ列島の概要

トカラ列島は鹿児島県屋久島から奄美大島に至る約200kmの間に点在する12の島々からなり、北緯30度の口之島から北緯28度50分の横当島までおよそ180kmある。そのうち人の住んでいる島は口之島、中之島、諏訪之瀬島、平島、悪石島、小宝島、宝島の7島で他は無人島となっている。トカラ列島は全島が火山島であるが、現在活動を続けているのは諏訪之瀬島と中之島だけである。列島の地体構造は口之島、中之島、諏訪之瀬島、悪石島が新期造山帯に属し、これらの西側に並ぶ臥蛇島、小臥蛇島、平島、小宝島、宝島、上ノ根島、横当島は古期造山帯に属している。列島のほとんどの島は周囲を急な断崖で囲まれているが、小宝島と宝島は隆起サンゴ裾礁が発達している。

気候は、一年を通じて黒潮の影響を受けているため温暖であり、亜熱帯性の植生が見られる。また、動物地理区の境界線である渡瀬線が悪石島と小宝島との間（七島灘）に引かれており、悪石島以北は旧北区、小宝島以南は東洋区とされている。

現在トカラ列島への交通機関は、村営船「としま」がほぼ4日に一便島伝いに運行しており鹿児島市との間を往復している（奄美大島の名瀬港に寄港する便もある）。

(よねざわ としひこ)



宝島

永田 武志

○はじめに

我々は、1991年3月14日から18日まで宝島にて、卒業祝いを兼ねた春旅行の一環として動植物の観察や採集を行った。特筆すべき成果は少なかったが、以下その報告をする。但し、採集リストは甲虫類とチョウ類のみ掲げることにした。

尚、宿泊その他に関しお世話下さった平田喜義区長と平田駐在員、松下局長をはじめ郵便局員一同、その他関係の方々から心からお礼申し上げる。

○メンバー

西村一郎（当時4年）・池俊人・小野雅幸・永田武志・米沢俊彦。

○日程

3月13日（水）：部室集合（21:00）
鹿児島港発（22:05）
14日（木）：宝島着（13:00）
↓
動植物の観察や採集を行う
19日（火）：宝島発（13:20）

○天候

概して曇り気味であり、終日晴れていたのは18日のみであった。他の日は、時折晴れてもすぐに曇り若しくは小雨になるという変わり易い天気であった。北または西寄りの強い風もやや目立った。また、海上では波がやや高かったようである。14日は激しいうねりのため入港予定の北岸の港ではなく東岸の宝島港に接岸したが、この様なことは日常茶飯事のようなものである。

	14	15	16	17	18	19
午前	/	☂/0	↑/0	☂	☂	☂/0
午後	0/☂	0/↑	0/↑	0/☂	☂/0	/

○位置・地形など

宝島は、北緯29°08'，東経129°13'を通る面積5.94km²，最高標高291.9mの小島であり、北西（南東）方向に斜辺を持つ直角二等辺三角形をいびつにしたような形をしている。

島の北西部から南東部にかけて島唯一の山地が走っているが、これは北西端に位置する女神山（130m）から概して南東方向へ標高140m，179m，254mの小さなピークを経て最高峰のイマキラ岳へと連なり、そこから更に南東に位置する標高207m，65mのピークを経て最東南端の荒木崎へ及ぼんとする。

島の北東部には小丘や小湖沼を持つ平地が広がっており、田畑や集落は主として緩傾斜地となっている山地の北麓に発達している。

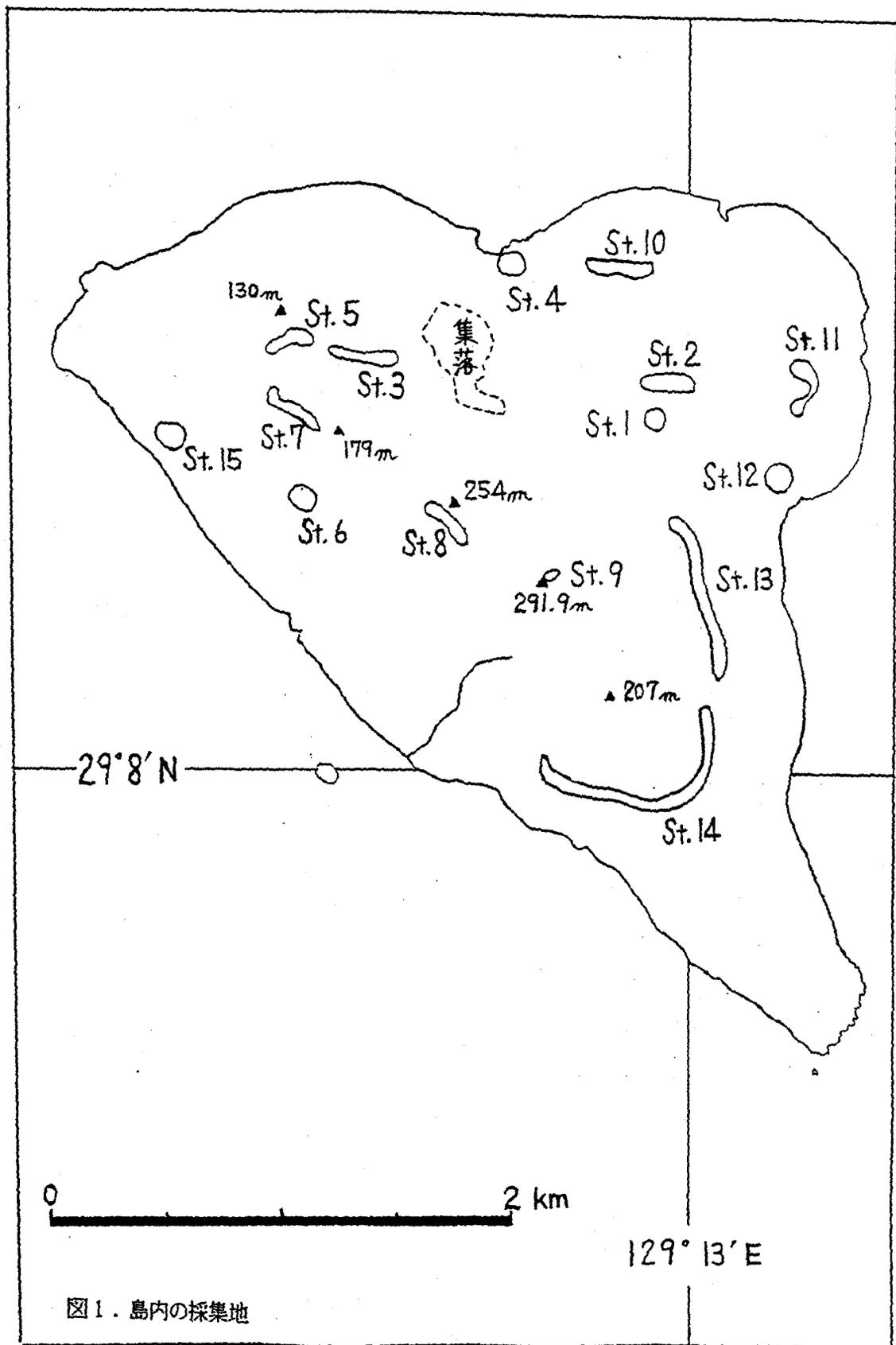


図1. 島内の採集地

○植生（標高は全て高台などからの観察や写真より推定した値である）

まず目に付くのはリュウキュウマツとリュウキュウチク、女神山のピロウである。また、集落内のアコウの大木や観音洞前のガジュマル、海岸のアダンも特徴的であり、女神山付近ではタブノキが意外に目立つ。

イマキラ岳の山頂部ではリュウキュウチクが卓越しているが、これは以前草地であったところの遷移が一段階進んだためであると考えられる。

山地の標高150m付近から畑地や一周道路に至るまでは、北部ではリュウキュウマツが卓越しており、東部と南部では広葉樹林中にところどころリュウキュウマツ群落が見られているという感じである。西部では広葉樹林とリュウキュウマツ群落が見られる。

女神山をやや西から見ると、山頂から標高60m付近までが大きく3層に分かれているのが分かる。山頂から標高110m付近にかけては広葉樹林が見られ、標高110m付近から標高85m付近にかけてはピロウが卓越しており、その下の部分はリュウキュウマツ群落となっている。但し、ピロウの樹冠が山頂近くに見える箇所があったり、リュウキュウマツの大木が標高100m付近に生えていたりもする。また、標高60m付近ではリュウキュウマツの稚樹がかなり目立つが、その辺りから海の方へ向かって荒れ地が広がっており、多年性草本類が卓越する中にソテツや広葉樹の小規模な低木林が見られる。

○日ごとの観察・採集記（筆者によるもののみ）

※観察・採集地St.の1・5は広葉樹林の林床、2・10・11・15は草地・荒れ地（2のみ池あり）、3・6～8・13・14は林縁、4・12は海岸、9は山頂である（図1参照）。

15日：一周道路に沿ってSt.1～3で採集する。

大池は、昭和47年国土地理院発行（空中写真は昭和44年5月撮影のものを使用。現地調査は昭和45年4月実施）の2.5万分の1地形図によると東西最大幅約300m、南北最大幅約60m、面積約1.38haの平行四辺形にやや近い形をした池として描かれているが、我々が訪れた時は3畳程の広さの水たまり（水深約20cm、底は砂質）を湿地（匍匐性の植物が生えている）が取り囲み、その周りにイネ科植物などが生える草原となっていた。ここでは主としてゲンゴロウ類・ヤゴ類を採集した。羽化したのアジアイトトンボ1♀も得られた。午前10時半に草原の温度は25℃を示し、池の水温は17℃であった。

16日：午後1時からSt.4で1時間半程採集する。

石の下と放置された丸太の下からそれぞれゴミムシの1種、ハサミムシが得られた。

17日：St.5～9で採集する。

観音洞の入口近くの終日日陰になっているような場所（St.6）でカミキリムシの幼虫が入っている材（長さ90cm、直径9cm）を採集する。

St.8ではヤマトシジミを多数目撃する。また、未同定の樹木の花（1, 2分咲き）からスウィーピングによりクモやアブ、アリの類が得られた。

St.9ではカミキリムシの幼虫の入った非常に乾燥した枯れ木（長さ140cm、直径5cm）を採集したが、周りはリュウキュウチクばかりで、元々どこに生えていたのか見当がつかなかった。

18日：St.10~14で採集する。

St.10, 11ではアブラナ科植物のスウィーピングによりオキナワコアオハナムグリやハムシ類が得られた。また、モンシロチョウを1頭目撃した。

ムラサキオカヤドカ리는広く海岸沿い（St.12など）に生息していると思われるが、浜辺の石の下に潜んでいる個体が多数観察された。我々の目にしたオカヤドカリ類の中にナキオカヤドカリも含まれていたと思われる。

St.12において午後1時には砂上15cmの気温が28℃もあり、砂中1.5cmの深さの温度は29℃もあったが、石の下の砂中1.5cmの深さの温度は16℃と低くなっていた。石や木の下にはハマベヒメサビキコリなども見られたが、これらの生物の行動と気温の変化との関係を調べるのもおもしろそうである。

St.14では枯れた枝や蔓のピーティングによりホオズキカメムシやマルカメムシ、カニムシの1種などが甲虫類と共に得られた。

浜辺の藪近くの岩の下にはタカラヤモリが見られた。

St.10付近のゴミ捨て場近くで午後9時半から11時（平均気温16℃）まで灯火採集を行ったが、蛾の類が数頭飛来しただけであった。

鞘翅目 COLEOPTERA

オサムシ亜目 ADEPHAGA

I オサムシ科 Carabidae

1. オオアオモリヒラタゴミムシ *Colpodes buchani* Hope
St.14; (1ex., 18.III, 永田)

II ゲンゴロウ科 Dytiscidae

2. セスジゲンゴロウ属の1種 *Copelatus* sp.
St.2; (1ex., 15.III, 永田), (2exs., 16.III, 米沢)
3. ヒメゲンゴロウ属の1種 *Rhantus* sp.
St.2; (3exs., 15.III, 小野), (5exs., 15.III, 永田)
(10exs., 16.III, 米沢)
4. コガタノゲンゴロウ *Cybister tripunctatus orientalis* Gschwendtner
St.2; (2exs., 15.III, 小野)

カブトムシ亜目 POLYPHAGA

III ガムシ科 Hydrophilidae

5. マメガムシ *Regimbartia attenuata* (Fabricius)
St.2; (2exs., 15.III, 小野), (9exs., 15.III, 永田)
(6exs., 16.III, 米沢)

IV クワガタムシ科 Lucanidae

6. タカラヒラタクワガタ *Dorcus platymelus takaraensis* (Fujita et Ichikawa)
St.1; (1♀・幼虫1ex., 15.III, 小野)
St.3; (幼虫5exs., 15.III, 永田)
St.5; (幼虫5exs., 17.III, 小野), (幼虫3exs., 17.III, 永田)

1991年6月5日に筆者飼育の1♂が蛹化しているのを確認。その3週間後、本個体が羽化しているのを確認した。管理の不手際から他の幼虫は全て死亡した。

V コガネムシ科 Scarabaeidae

7. オキナワコアオハナムグリ *Oxycetonia forticula forticula* (Janson)

St.10; (5exs., 18.Ⅲ, 永田), (5exs., 18.Ⅲ, 米沢)

St.11; (3exs., 18.Ⅲ, 永田)

黒沢(1985)によると本亜種は腹面に白斑を欠くということであるが, 第5腹節の両側に明らかに白斑の認められる個体が4 exs.得られた。

VI タマムシ科 Buprestidae

8. ウバタマムシ *Chalcophora japonica takarajimana* Y.Krosawa

St.5; (1ex., 18.Ⅲ, 米沢)

VII コメツキムシ科 Elateridae

9. ハマベヒメサビキコリ *Agrypnus miyamotoi miyamotoi* (Nakane et Kishii)

St.11; (4exs., 18.Ⅲ, 永田), (4exs., 18.Ⅲ, 米沢)

St.12; (2exs., 18.Ⅲ, 小野)

VIII コメツキモドキ科 Languriidae

10. ケシコメツキモドキ *Microlanguria jansoni* (Crotch)

St.14; (3exs., 18.Ⅶ, 永田)

IX ゴミムシダマシ科 Tenebrionidae

11. ムラサキズビロキマワリモドキ *Gnesis helopioides purpurascens* Nakane

St.1; (1ex., 15.Ⅲ, 小野)

St.14; (2exs., 18.Ⅲ, 永田)

X カミキリムシ科 Cerambycidae

12. オキナワゴマフカミキリ *Mesosa pictipes miyamotoi* Hayashi

St.6で得られた材より5月25日~28日の間に1 ex.が羽化脱出した。

13. アヤモンチビカミキリ *Sybra ordinata tokara* Hayashi

St.9で得られた材より5月20日~24日の間に5 exs.が羽化脱出した。

14. ワモンサビカミキリ *Pterolophia annulata* (Chevrolat)

St.13; (1ex., 18.Ⅲ, 永田)

15. トカラコブヒゲカミキリ *Rhodopina tokarensis* Hayashi

4月25日に材(St.6のものかSt.9のものか不明)より1♂1♀が羽化脱出した。

16. オビレカミキリ *Euseboides matsudai* Gressitt

St.14; (1♂1♀, 18.Ⅲ, 永田)

17. リュウキュウルリボシカミキリ *Glenea chlorospila* Gahan

St.6で得られた材より4月24日に5 exs., 同29日に3 exs.が羽化脱出した。

XI ハムシ科 Chrysomelidae auct.

18. ハマゴウハムシ *Phola octodecimguttata* (Fabricius)

St.10; (1ex., 18.Ⅲ, 永田), (1ex., 18.Ⅲ, 米沢)

19. ウリハムシ *Aulacophora femoralis* (Motschulsky)

St.10; (3exs., 18.Ⅲ, 永田), (1ex., 18.Ⅲ, 米沢)

XII ヒゲナガゾウムシ科 Anthribidae

20. ワタミヒゲナガゾウムシ属の1種 *Araecerus* sp.

St.14; (2exs., 18.Ⅲ, 永田)

X III ゾウムシ科 Curculionidae

21. サビヒョウタンゾウムシ属の1種 *Scepticus* sp.

St.12; (2exs., 18. III, 永田), (1ex., 18. III, 小野)

22. *Phloeophagosoma* sp.

St. 9で得られた材より4 exs.が羽化脱出した。

触角が一樣に曲がっており且つ吻側面中央についていること、触角溝が背面から見えないことなどからワシバナヒメキクイゾウムシ *Phloeophagosoma curvirostre* Wollaston に近縁な種であると考えられる。この度得られた4個体の平均体長(頭部の先端から腹端までの長さ)は4.9mm(最大5.2mm, 最小4.8mm)である。

科の分類と配列は原色日本甲虫図鑑 I (保育社)に、学名と和名は同 II~IV (同)に従った。但し、クワガタムシ科は検索入門クワガタムシ (同)に従った。

参考文献

森本桂・他(1984~1986)原色日本甲虫図鑑(I)~(IV)。保育社。

岡島秀治・若林守男(1988)検索入門クワガタムシ。保育社。

鱗 翅 目 LEPIDOPTERA

チョウ亜目

I アゲハチョウ科 Papilionidae

1. アオスジアゲハ *Graphium sarpedon* Linnaeus

St. 7; (1ex.目撃, 17. III, 米沢)

2. モンキアゲハ *Papilio helenus* Linnaeus

St. 3; (2exs., 15. III, 米沢)

St. 5; (1ex., 17. III, 米沢)

II シロチョウ科 Pieridae

3. モンキチョウ *Colias (Colias) erate* Esper

St.10; (1ex., 18. III, 永田)

St.12; (1ex., 18. III, 米沢)

St.15; (1ex., 17. III, 米沢)

III シジミチョウ科 Lycaenidae

4. ヤマトシジミ *Pseudozizeeria maha* Kollar

St. 8; (4exs., 17. III, 永田), (11exs., 17. III, 米沢)

St.12; (3exs., 14. III, 米沢)

IV マダラチョウ科 Danaidae

5. カバマダラ *Anosia chrysippus* Linnaeus

St. 1; (1♀, 18. III, 米沢)

St. 2; (2♂♂1♀, 15. III, 永田)

食草のトウワタが集落とその周辺に見られたが、幼虫などは確認されなかった。

6. アサギマダラ *Parantica sita* Kollar
 St. 3 ; (1♂2♀♀, 15.Ⅲ, 米沢), (1♂1♀, 17.Ⅲ, 永田)
 St. 5 ; (1♂, 17.Ⅲ, 米沢)
 St. 14 ; (1♂, 15.Ⅲ, 永田)
- Ⅴ タテハチョウ科 Nymphalidae
7. ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius* Linnaeus
 St. 11 ; (1♀, 18.Ⅲ, 永田)
8. ルリタテハ *Kaniska canace* Linnaeus
 集落 ; (1ex., 15.Ⅲ, 米沢)
 St. 3 ; (1ex., 14.Ⅲ, 永田)
 St. 8 ; (1ex., 17.Ⅲ, 永田), (2exs., 17.Ⅲ, 米沢)
9. タテハモドキ *Precis almana* Linnaeus
 St. 2 ; (1ex., 15.Ⅲ, 永田)
 St. 12 ; (1ex., 18.Ⅲ, 永田)
 St. 15 ; (1ex., 18.Ⅲ, 米沢)

参考文献

- 川副昭人・若林守男 (1985) 原色日本蝶類図鑑. 保育社.
 福田晴夫・他 (1984) 原色日本蝶類生態図鑑 (Ⅳ). 保育社.

〇おわりに

今回私が観察・採集した動物は、昆虫類56種、クモ形類4種、哺乳類2種、爬虫類2種、鳥類1種、両生類1種であり、植物はわずか30種程である。知識不足のため稚拙な報告となったが、参考にさせていただければ幸いである。

(ながた たけし)

中之島の蝶

金井 賢一

初めてのトカラ列島である。

交通手段、島での宿泊などの事情で足を運ぶ機会が今までなかった私にとって、期待の多い渡島であった。滞在した5日間のうち雨天の日は22日だけだったが、連日のように夕立のような雨が降り苦労した。

3月中旬～下旬ということで、注目していたのはカラスアゲハが出現しているかということであった。島の小中学校の先生によると、'90秋の台風により海沿いのハマセンダンなどは海水を浴びてしまったのでは？ということだったが、19日と21日に数頭見ることができた。

気が付いた事としてはアサギマダラとリュウキュウアサギマダラの存在であった。どちらも楠木の集落内では多数見られた。川沿いの白い花には両種入り混じって飛び交っていた。だが一直線道路を越えて島の東側の林道・高元線にはいると、アサギマダラは道沿いに多数飛んでいたもののリュウキュウアサギマダラを見ることはなかった。聞くところによると、学校の先生がリュウキュウアサギマダラの越冬地を見つけたとのことだったので、合わせて面白いことである。

その他楠木集落内のトウワタでカバマダラの幼虫・蛹を捜したが見つけれなかった。

最後になりましたが、中之島の人々には本当にお世話になりました。雨の中歩いているところを軽トラの荷台に乗せて頂き、また温泉では島の話などを色々と聞けてとても役に立ちました。心から御礼申し上げます。

*地図中で点線以後の北回り、南回りの道は省略した。



1. アオスジアゲハ *Graphium sarpedon* Linnaeus
中之島林道；(1ex.目撃, 21.Ⅲ, 金井)
2. モンキアゲハ *Papilio helenus* Linnaeus
楠木；(1ex.目撃, 21.Ⅲ, 米沢)
3. カラスアゲハ *Papilio bianor* Cramer
楠木；(1ex.目撃, 19.Ⅲ, 金井)
中之島林道；(1♀, 19.Ⅲ, 金井) (1ex., 1♀, 21.Ⅲ, 金井)
(数頭目撃, 21.Ⅲ, 米沢)
4. キチョウ *Eurema (Terias) hecabe* Linnaeus
高元線；(1ex., 20.Ⅲ, 金井)
中之島林道；(1ex., 19.Ⅲ, 金井) (2exs., 21.Ⅲ, 米沢)
5. アマミウラナミシジミ *Nacaduba kurava* Moore
中之島林道；(1♀, 19.Ⅲ, 金井) (1ex., 21.Ⅲ, 金井)
(4♂♂1♀, 21.Ⅲ, 米沢)
6. ヤマトシジミ *Pseudozizeeria maha* Kollar
楠木；(2exs., 19.Ⅲ, 金井)
中之島林道；(2exs., 21.Ⅲ, 米沢)
7. カバマダラ *Anosia chrysippus* Linnaeus
楠木；(1♂1♀, 19.Ⅲ, 金井)
8. アサギマダラ *Parantica sita* Kollar
楠木；(1♀, 19.Ⅲ, 金井)
高元線；(多数目撃, 20.Ⅲ, 金井)
中之島林道；(1♂, 19.Ⅲ, 金井) (2♂♂, 21.Ⅲ, 米沢)
9. リュウキュウアサギマダラ *Ideopsis (Radena) similis* Linnaeus
楠木；(1♂1♀, 19.Ⅲ, 金井) (1ex., 20.Ⅲ, 米沢)
中之島林道；(3exs., 21.Ⅲ, 米沢)
10. ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius* Linnaeus
池原；(1♂, 20.Ⅲ, 米沢)
中之島林道；(1♀, 21.Ⅲ, 米沢)
11. ルリタテハ *Kaniska canace* Linnaeus
中之島林道；(多数目撃, 21.Ⅲ, 金井・米沢)
12. ヒメアカタテハ *Cynthia cardui* Linnaeus
中之島林道；(2exs., 21.Ⅲ, 米沢)
13. アカタテハ *Vanessa indica* Herbst
楠木；(1ex., 19.Ⅲ, 金井)

参考文献

川副昭人・若林守男(1985)原色日本蝶類図鑑. 保育社.

(かない けんいち)

1991年高隈春合宿の報告

小崎ジュン・濱田しおり

1991年5月3日から5月6日まで鹿児島県垂水市、高隈山系猿ヶ城溪谷付近において生物研究会の合宿を行ったので、その報告を以下に記す。

○メンバー

：泊信義・大平原一高・小野雅幸・金井賢一・的場亮平・牛ノ濱孝・桐野敦子・
小崎ジュン・中村理樹・濱田しおり・米沢俊彦・瀬戸口芳成・東幸希・藤田寛・
※また本会OB，溝口信彦氏・野添和久氏・中峯浩司氏・西村一郎氏・松原一正
氏の参加があった。

○日程、コース

5月3日（金）：部室集合 鴨池港 垂水港 猿ヶ城溪谷二番小屋着

5月4日（土）：個人活動

5月5日（日）：個人活動

5月6日（月）：午前，個人活動。猿ヶ城溪谷発 垂水港 鴨池港 部室着

※コースの中で鴨池港はタクシー，垂水港はフェリー，を表す。

フェリー運行時間は，始発4:50から約45分おきに運行。最終22:00。

垂水港からの二番小屋までの所用時間は，車で約30分。

○天気

毎年，雨が心配される春合宿だが，最終日を除けば，今年は天候に恵まれ，部員全員が満足のいく活動ができたと思われる。ただ，降灰がひどく，歩く度に木々に積もった灰が舞い苦労した。また，朝晩，非常に冷え込んだ。

5/3 ☆ 5/4 ☆ 5/5 ☆ 5/6 ↑

○感想

5月の連休中に行われる春合宿は，入部して間もない1年生との親交を深めることを目的とするとともに，1年生は上級生と活動を共にすることで，今後の活動の指針を考えるよい機会となる。今年は，大学から最も身近なフィールドといえる，高隈で行われたため上級生は1年生をリードしやすかったように思われる。

（とぎき じゅん・はまだ しおり）

鹿児島県



蝶の採集記録

東 幸希

高隈合宿は私にとって初めての合宿だったため、緊張と不安と楽しみが混じったものだった。しかし、実際に行ってみると、あっというまの3日間だったような気がする。

当時の私は蝶のことをろくに知らなかった。猿ヶ城溪谷で私が最初に覚えた蝶はジャコウアゲハだった。他にトラフシジミやコムスジなどだった。その中でも特にカラスアゲハに心魅かれたものだった。

猿ヶ城溪谷で見た蝶で特に記憶に残った種を書いておく。

・ジャコウアゲハ 山道を歩くとかなり多く見られ、ヤマツツジの花でよく吸蜜していた。

・サツマシジミ マルバウツギの花に飛来していた。

・モンシロチョウ マルバウツギの花に飛来していた。

以下にリストを記す。採集場所はすべて猿ヶ城である

鱗 翅 目 LEPIDOPTERA

チョウ亜目

I アゲハチョウ科 Papilionidae

1. ジャコウアゲハ *Atrophaneura alcinous* Klug

合宿期間中、連日多数目撃した。

2. アオスジアゲハ *Graphium sarpedon* Linnaeus

(1ex., 4.V, 金井)

3. モンキアゲハ *Papilio helenus* Linnaeus

(1ex., 5.V, 金井)

4. カラスアゲハ *Papilio bianor* Cramer

(1ex., 4.V, 米沢)

II シロチョウ科 Pieridae

5. キチョウ *Eurema (Terias) hecabe* Linnaeus

(1ex.目撃, 3.V, 桐野)

6. モンシロチョウ *Pieris (Artogeia) rapae* Linnaeus

(1ex.目撃, 3.V, 桐野)

III シジミチョウ科 Lycaenidae

7. ムラサキシジミ *Narathura japonica* Murray

(1ex., 4.V, 米沢)

8. キリシマミドリシジミ *Chrysozephyrus ataxus* Doubleday & Hewitson

(幼虫1ex.目撃, 5.V, 桐野)

9. トラフシジミ *Rapala arata* Bremer

(2exs., 3.V, 米沢) (1♀, 4.V, 桐野) (9exs., 4.V, 米沢)

(1♂, 5.V, 桐野) (1ex., 5.V, 金井) (3exs., 5.V, 米沢)

10. コツバメ *Callophrys ferrea* Butler
(1ex., 4.V, 金井) (1♂, 5.V, 桐野)
11. サツマシジミ *Celastrina albocaerulea* Moore
(1ex., 3.V, 桐野) (1ex., 3.V, 米沢) (3exs., 4.V, 米沢)
(1ex., 5.V, 金井)
12. ルリシジミ *Celastrina argiolus* Linnaeus
(4exs., 3.V, 米沢) (4exs., 4.V, 金井) (2exs., 4.V, 米沢)
(1ex., 5.V, 金井) (1ex., 5.V, 米沢)
13. スギタニルリシジミ *Celastrina sugitani* Matsumura
(1♂, 3.V, 桐野)
- IV タテハチョウ科 Nymphalidae
14. コミスジ *Neptis sappho* Pallas
(1ex., 4.V, 金井)
15. ゴマダラチョウ *Hestina japonica* C.&R.Felder
(1ex., 4.V, 金井)
- V ジャノメチョウ科 Satyridae
16. クロヒカゲモドキ *Lethe marginalis* Motschulsky
(1ex., 3.V, 金井)
- VI セセリチョウ科 Hesperiiidae
17. クロセセリ *Notocrypta curvifascia* C.&R.Felder
(1ex., 4.V, 金井)

←クロヒカゲ (*marginalis* Motschulsky → *diana* Butler) へ訂正

以上、5月3日～5日までの3日間の高隈山系における採集と目撃記録である。
学名及び種の配列は、「原色日本蝶類図鑑」によった。

参考文献

川副昭人・若林守男 (1985) 原色日本蝶類図鑑. 保育社.

(ひがし ゆき)

トンボの採集記録

牛ノ瀨 孝

高隈山系猿ヶ城溪谷において以下のトンボを採集したので報告する。

ト ン ボ 目 ODONATA

均翅亜目 ZYGOPTERA

カワトンボ科 Calopterygidae

1. ミヤマカワトンボ *Calopteryx cornelia* Selys
猿ヶ城；(1♂1♂, 4.V, 牛ノ瀨) (1♀, 4.V, 米沢)
2. カワトンボ *Mnais strigata* Selys

データー追加 猿ヶ城；(1ex., 4.V, 米沢)

不均翅亜目 ANISOPTERA

ムカシヤンマ科 Petaluridae

3. ムカシヤンマ *Tanypteryx pryeri* Selys
猿ヶ城；(1♀, 4.V, 米沢)

参考文献

石田昇三(1969)原色日本昆虫生態図鑑IIトンボ編. 保育社.

(うしのはま たかし)

1991年奄美大島夏合宿の報告

中村 理樹

1991年7月11日から7月23日まで奄美大島において生物研究会合宿を行ったので、その報告を以下に記す。

○メンバー

11～23日：小野雅幸・金井賢一・牛ノ濱孝・桐野敦子・中村理樹・米沢俊彦・大迫正規・坂口志保・東幸希・藤田寛。

11～17日：瀬戸口芳成・光永佳奈枝。

15～23日：泊信義・吉谷弘子・小崎ジュン・濱田しおり・溝口信彦。

※1 溝口氏は本会のOBである。

※2 米沢は合宿後も魚類の調査のために8月下旬まで残った。

○日程、コース

7月11日(木)：部室集合(16:00) 乗 鹿児島新港(17:00) 乗 [フェリーあけぼの]

12日(金)：名瀬港(5:00) 乗 新村(8:00)

↓ 新村を拠点にして採集・観察をおこなう

22日(月)：新村(18:00) 乗 名瀬港(21:00) 乗 [クイーンコーラル]

23日(火)：鹿児島新港(9:00) 乗 部室到着(10:00)

※コースの中で乗はタクシー、乗はフェリー、乗はバスを表す。

○天気

奄美ではこの時期毎日夕方もしくは朝方にスコール状の雨が降っていたが、終日それに悩まされたことはなかった。

筆者も湯湾岳に小野先輩、藤田と登ったとき、途中で雷まじりの大雨にでくわし傘を持っていたにもかかわらず、みんながずぶぬれとなった。疲れ果てて登って、湯湾岳の広場で寒がりながら服を乾かし根性も吹っ飛んでしまった。ちゃんとした雨具は絶対必要だ。

11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
／	※／	○	○／↑	※ ○	※／↑	☆	☆	☆	※／↑	☆	※／○	／

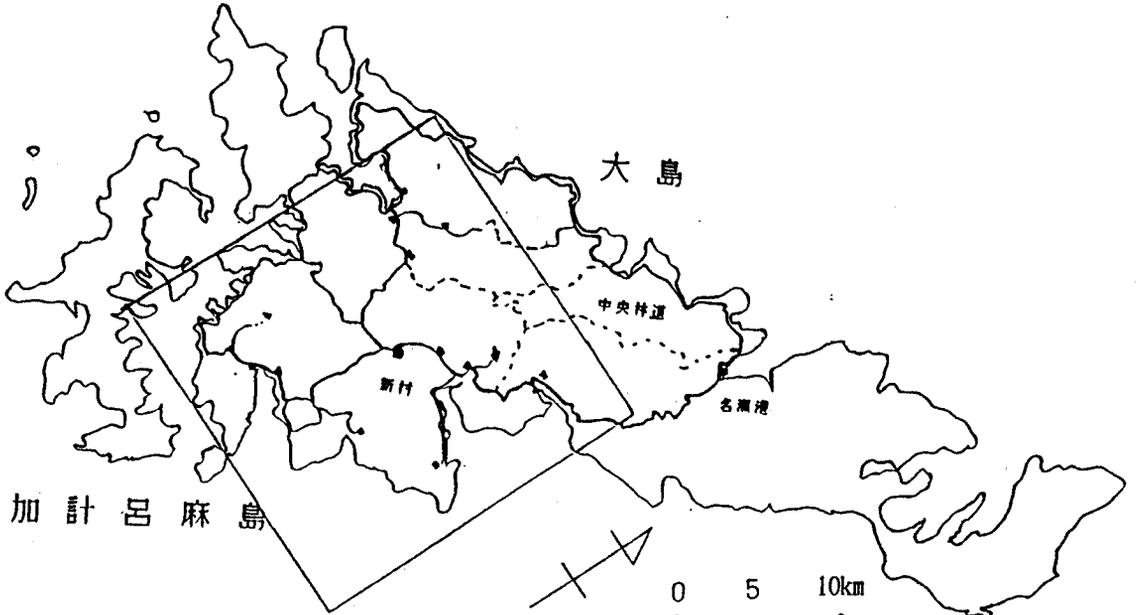
○感想

自分は、奄美ではキノコの採集を行っていた。確かに新村はバスが集まるところであり、奄美南部の各方面へバスで移動できる利点があり良い場所ではある。だが、バスを降りた後、目的のフィールドまでアスファルトもしくは砂利道を歩いていかななくては行けなかったのがとても苦痛であった。また現在最も人気のある場所であろう中央林道が、遠くて行けなかったのも残念であった。やはり奄美には個人の乗り物を持っていくか向こうで借りるかしなければ、活動が難しいと感じた。

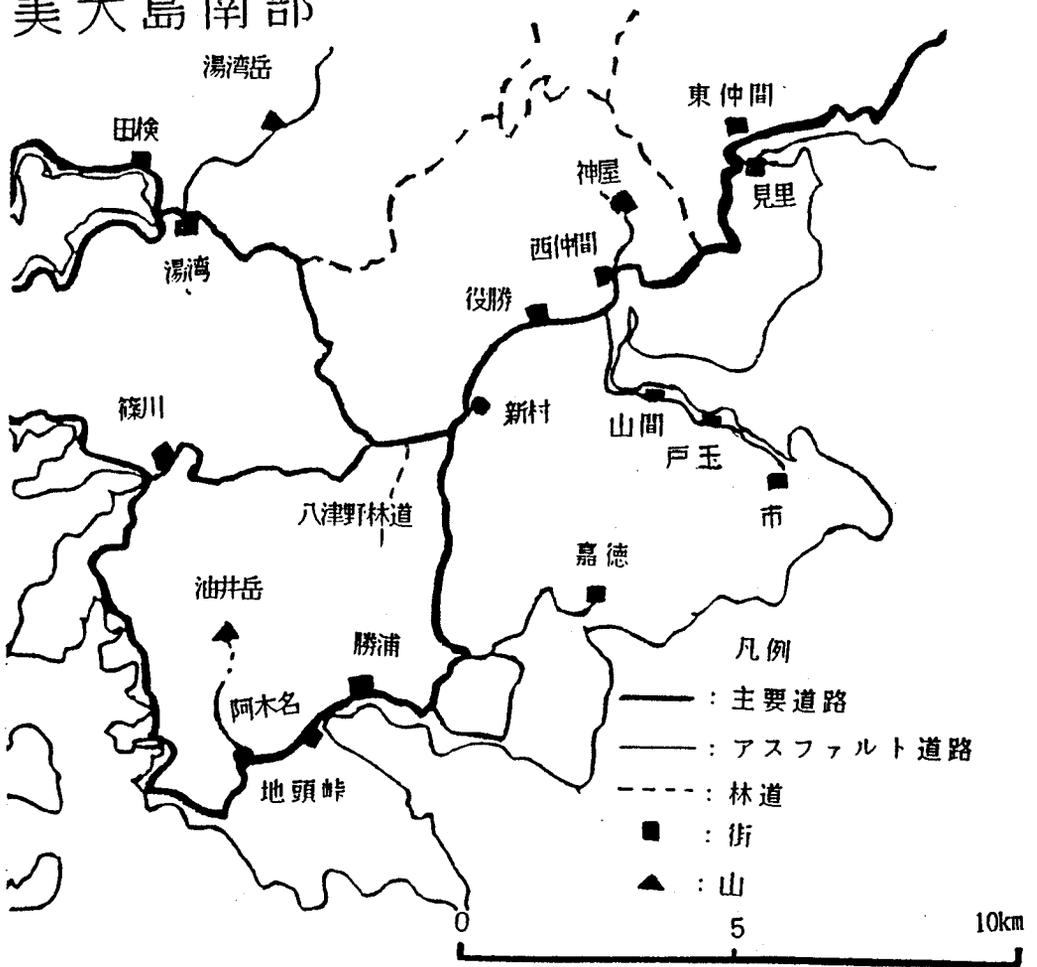
最後になりましたが、新村においてお世話になった新村区長である川内義治さんと公民館周辺の方々に紙面を借りてお礼申し上げます。

(なかむら としき)

奄美地方



奄美大島南部



草 本 ・ 木 本 の 花 の 吸 蜜	ヒギリ	ツマグロヒョウモン	
	サルビア	イチモンジセセリ	
	橙色	トウワタ	カバマダラ, スジグロカバマダラ
		ノウゼンカズラ	◎モンキアゲハ, ◎クロアゲハ, ◎ナガサキアゲハ, ツマベニチョウ
		ランタナ	◎ジャコウアゲハ, アオスジアゲハ, モンキアゲハ, キチョウ, ◎アオバセセリ, チャバネセセリ, クロセセリ
		マリーゴールド	カバマダラ, ◎ツマグロヒョウモン, ◎チャバネセセリ
	黄色	ハマグルマ属の 一種	タイワンクロボシジミ
		カタバミ	ヤマトシジミ
	白色	アユキセンダ ングサ類	キチョウ, モンシロチョウ, リュウキュウアサギマダラ, チャバネセセリ
		アカミズキ ソクス シマサルスベリ	ナミエシロチョウ, リュウキュウアサギマダラ, リュウキュウミスジ, ◎イシガキチョウ, ◎アオバセセリ ◎アオスジアゲハ アオスジアゲハ, リュウキュウミスジ
	ヤブガラシ	アオスジアゲハ,	
	テリハノブドウ	アオスジアゲハ, ナミエシロチョウ, リュウキュウアサギマダラ	
	オオアレチ ノギク	ナミエシロチョウ, ◎ウラナミシジミ	
	アカメガシワ	タイワンクロボシジミ	
吸 汁	樹液	ミカン科栽培種 木本一種(スダ ジイカ?)	◎ルリタテハ ◎ルリタテハ, スミナガシ, ◎アカボシゴマダラ
	腐果	バナナトラップ による	◎ルリタテハ
吸 水	水たまり, 河原		◎アオスジアゲハ, ムラサキシジミ, ◎イシガキチョウ

以上は、個人のメモと後日の記憶に基づいて列挙したものであり、全てを網羅することはできなかったが、不確実なデータは省くように努めた。吸蜜、吸汁及び吸水源の種類とれに集まるチョウの種類の関係には興味深いものがある。(花の色、花の構造と集まるチョウの種類、性差があるか、近似種間の棲みわけと吸蜜源の利用の関係等。)これらのことは今後の活動における資料を蓄積して考察してみたいと思っている。

以下、今合宿のリストを記す。

尚、合宿後ナガサキアゲハ(有尾型)の採卵を依頼した本会OB守山泰司氏に心からお礼申し上げます。

鱗翅目 LEPIDOPTERA

チョウ亜目

I アゲハチョウ科 Papilionidae

1. ジャコウアゲハ *Atrophaneura alcinous* Klug
勝浦；(1ex., 13.VII, 大迫)
役勝；(1ex., 16.VII, 金井) (1♂1♀, 16.VII, 桐野)
川沿いの林縁付近に多い。
2. アオスジアゲハ *Graphium sarpedon* Linnaeus
役勝；(1ex., 12.VII, 大迫) (1♂, 12.VII, 金井) (1♂, 12.VII, 桐野)
(1ex., 12.VII, 東)
役勝川, 阿木名川の河原では多くの吸水を見かけた。
3. アゲハ *Papilio xuthus* Linnaeus
役勝；(1ex., 12.VII, 大迫) (1♂, 12.VII, 金井) (1♂1♀, 12.VII, 桐野)
(1♂, 12.VII, 東)
4. シロオビアゲハ *Papilio polytes* Linnaeus
勝浦；(1♂, 13.VII, 金井)
西仲間；(目撃1ex., 14.VII, 桐野)
上記の採集, 目撃のみ。
5. モンキアゲハ *Papilio helenus* Linnaeus
阿木名；(1♀, 13.VII, 桐野)
役勝；(1ex., 12.VII, 金井) (1ex., 13.VII, 金井) (1♂, 14.VII, 東)
(1ex., 16.VII, 金井)
山間；(1ex., 15.VII, 大迫)
油井岳；(1♂, 17.VII, 桐野)
著しく小型の個体もあった。
6. クロアゲハ *Papilio protenor* Cramer
阿木名；(1♂, 13.VII, 東)
役勝；(1♂, 12.VII, 桐野) (1♂, 13.VII, 金井) (1♀, 14.VII, 東)
山間；(1ex., 15.VII, 大迫)
尾状突起の非常に短い個体もあったが, その長さにはばらつきが見られる。
7. ナガサキアゲハ *Papilio memnon* Linnaeus
嘉徳；(2♀♀, 20.VII, 米沢)
役勝；(1♀, 12.VII, 大迫) (1♂1♀, 12.VII, 金井) (1♂1♀, 12.VII, 桐野)
(1♀, 12.VII, 東) (1♀, 22.VII, 東)
山間；(目撃1♀, 4.VII, 米沢) ←訂正 (4 14)
嘉徳と山間のそれぞれ1♀は有尾型であった。うち, 嘉徳の個体の産卵を守山泰司氏に依頼したが, 孵化にはいたらなかった。

8. カラスアゲハ *Papilio bianor* Cramer

- 西仲間 ; (1♂, 14. VII, 桐野)
役勝 ; (1ex., 12. VII, 大迫) (2exs., 13. VII, 金井)
山間 ; (1♂, 15. VII, 桐野) (1♂1♀, 15. VII, 東)
油井岳 ; (1♂, 17. VII, 東)

II シロチョウ科 Pieridae

9. モンキチョウ *Colias (Colias) erate* Esper

阿木名 ; (1♂, 13. VII, 桐野)

上記の採集のみ。

10. ウスキシロチョウ *Catopsilia pomona* Fabricius

- ギンモン型 阿木名 ; (1♀, 13. VII, 東)
勝浦 ; (1ex., 13. VII, 金井)
山間 ; (1ex., 15. VII, 金井) (1♂, 15. VII, 桐野)
ムモン型 役勝 ; (1ex., 15. VII, 金井)

11. キチョウ *Eurema (Terias) hecabe* Linnaeus

- 阿木名 ; (1ex., 13. VII, 大迫) (1♀, 13. VII, 桐野)
篠川 ; (1ex., 18. VII, 金井)
役勝 ; (1♀, 12. VII, 金井) (1♂1♀, 12. VII, 桐野) (1♀, 16. VII, 桐野)

12. ナミエシロチョウ *Appias (Catophaga) paulina* Cramer

- 市 ; (2♂♂, 20. VII, 桐野)
勝浦 ; (1♂, 13. VII, 東)
西仲間 ; (1♂, 15. VII, 米沢)
役勝 ; (1ex., 12. VII, 金井) (1♀, 17. VII, 米沢)
山間 ; (1♂1♀, 15. VII, 金井) (1♂, 15. VII, 桐野)
油井岳 ; (1ex., 17. VII, 金井)
湯湾岳 ; (1♀, 19. VII, 桐野)

13. モンシロチョウ *Pieris (Artogeia) rapae* Linnaeus

- 役勝 ; (1♀, 12. VII, 金井) (1♀, 12. VII, 桐野) (1♂, 12. VII, 東)
(1ex., 22. VII, 大迫)

14. ツマベニチョウ *Hebomoia glaucippe* Linnaeus

- 阿木名 ; (1ex., 13. VII, 大迫) (1♀, 13. VII, 桐野)
勝浦 ; (1ex., 19. VII, 金井)
西仲間 ; (1♂, 22. VII, 東)
役勝 ; (1ex., 12. VII, 大迫) (1♂1♀, 12. VII, 金井) (1♂, 12. VII, 桐野)
(1♂1♀, 12. VII, 東)
山間 ; (1♂1♀, 15. VII, 桐野)

III シジミチョウ科 Lycaenidae

15. ムラサキシジミ *Narathura japonica* Murray
 戸玉；(2exs., 16.VII, 米沢)
 西仲間；(1♀, 14.VII, 桐野) (1ex., 15.VII, 米沢)
 油井岳；(1ex., 17.VII, 金井) (1♂1♀, 17.VII, 桐野) (1♂, 17.VII, 東)
 (1ex., 21.VII, 大迫)
16. イワカワシジミ *Artipe eryx* Linnaeus
 勝浦；(前蛹, 蛹2exs., 13.VII, 桐野) (蛹3exs., 幼虫2exs., 19.VII, 金井)
 西仲間；(蛹1ex., 14.VII, 桐野)
 成虫は目撃できなかった。
17. ウラナミシジミ *Lampides boeticus* Linnaeus
 阿木名；(1♂, 13.VII, 桐野) (1♂, 18.VII, 米沢)
 役勝；(1ex., 16.VII, 金井)
 山間；(2♂♂, 15.VII, 桐野)
 山間ではインゲンとササゲを栽培している畑でオジロシジミと混飛していた。
18. オジロシジミ *Euchrysops cnejus* Fabricius
 田検；(1ex., 16.VII, 金井) (2♂♂1♀, 16.VII, 桐野)
 西仲間；(1♀, 13.VII, 米沢) (1ex., 14.VII, 金井)
 山間；(1♀, 15.VII, 桐野)
19. アマミウラナミシジミ *Nacaduba kurava* Moore
 役勝；(1ex., 12.VII, 大迫) (1♂1♀1ex., 12.VII, 金井)
 (3♂♂2♀♀, 12.VII, 桐野) (4♀♀, 13.VII, 米沢)
 山間；(2♀♀, 15.VII, 桐野) (1♀, 15.VII, 東)
 油井岳；(2♂♂, 17.VII, 桐野)
 湯湾岳；(1♀, 19.VII, 桐野)
 油井岳林道上では午後1時頃, 多くの雄が占有行動をとっていた。
20. ヤマトシジミ *Pseudozizeeria maha* Kollar
 阿木名；(1ex., 13.VII, 大迫) (2♀♀, 13.VII, 桐野) (1♀, 13.VII, 東)
 篠川；(1♂1♀, 18.VII, 金井)
 西仲間；(1♂, 13.VII, 米沢) (1ex., 14.VII, 金井)
 役勝；(2exs., 12.VII, 金井) (1♀, 12.VII, 桐野)
21. シルビアシジミ *Zizina otis* Fabricius
 阿木名；(3♂♂, 13.VII, 桐野) (1♂, 13.VII, 東)
 勝浦；(1♂, 13.VII, 桐野)
 役勝；(1♂, 13.VII, 桐野)
 山間；(1♀, 15.VII, 東)
 油井岳；(1♀, 18.VII, 米沢)
22. タイワンクロボシシジミ *Megisba malaya* Horsfield
 阿木名；(1♂1♀, 13.VII, 桐野)
 山間～戸玉；(1♂, 16.VII, 米沢)
 油井岳；(1♂, 17.VII, 桐野)

23. ヤクシマルリシジミ *Acytolepis puspa* Horsfield

阿木名；(1♀, 13.VII, 桐野)

役勝；(2exs., 13.VII, 金井)

油井岳；(1ex., 17.VII, 金井) (1♂, 17.VII, 桐野) (1♂, 18.VII, 米沢)

湯湾岳；(1♂, 19.VII, 桐野)

阿木名ではイスノキの生け垣で産卵行動を観察。その後、卵を捜すが確認できなかった。

IV テングチョウ科 Lybytheidae

24. テングチョウ *Libythea celtis* Fuessly

役勝；(1♀, 12.VII, 金井) (2♂♂, 12.VII, 桐野)

役勝では多く見かけた。

V マダラチョウ科 Danaidae

25. カバマダラ *Anosia chrysippus* Linnaeus

阿木名；(1♀, 13.VII, 大迫) (3♂♂, 13.VII, 桐野)

(2♂♂1♀, 18.VII, 米沢)

勝浦；(1♂1♀, 13.VII, 金井) (1♂, 13.VII, 桐野) (1♂, 13.VII, 東)

篠川；(1ex., 18.VII, 金井)

田検；(1ex., 16.VII, 金井)

戸玉；(6♂♂1♀, 16.VII, 米沢)

山間；(1♀, 15.VII, 桐野)

勝浦ではトウワタで卵と終齢幼虫を観察。

26. スジグロカバマダラ *Salatura (Anosia) genutia* Cramer

阿木名；(1♂, 13.VII, 桐野) (1♀, 18.VII, 米沢)

市；(1♀, 20.VII, 東)

篠川；(1ex., 18.VII, 金井)

山間；(1♂, 15.VII, 大迫)

湯湾岳；(1♂, 19.VII, 桐野)

27. アサギマダラ *Parantica sita* Kollar

湯湾岳；(1♂1♀, 19.VII, 桐野)

頂上部に近い林間を緩やかに飛翔。

28. リュウキュウアサギマダラ *Ideopsis (Radena) similis* Linnaeus

阿木名；(1♂, 13.VII, 東)

篠川；(1ex., 18.VII, 金井)

田検；(1♀, 16.VII, 桐野)

中央林道；(1ex., 21.VII, 米沢)

西仲間；(1ex., 13.VII, 米沢)

油井岳；(1ex., 17.VII, 大迫) (1♂, 17.VII, 桐野)

湯湾岳；(3exs., 19.VII, 桐野)

VI タテハチョウ科 Nymphalidae

29. ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius* Linnaeus
 阿木名；(1ex., 13.VII, 大迫) (1ex., 21.VII, 大迫)
 西仲間；(1♀, 14.VII, 桐野)
 役勝；(1♂1♀, 12.VII, 金井) (1♂, 12.VII, 桐野)
 山間；(1♂, 13.VII, 東) (1ex., 15.VII, 大迫)
30. リュウキュウミスジ *Neptis hylas* Linnaeus
 勝浦；(1ex., 21.VII, 大迫)
 西仲間；(1ex., 14.VII, 金井) (1♂, 14.VII, 桐野)
 油井岳；(1ex., 21.VII, 大迫)
31. ルリタテハ *Kaniska canace* Linnaeus
 役勝；(2♀♀, 12.VII, 桐野) (1ex., 13.VII, 東)
 油井岳；(1♀, 17.VII, 桐野)
 役勝のミカン畑にはかなり多かった。
32. タテハモドキ *Precis almana* Linnaeus
 西仲間；(1♂, 14.VII, 桐野) (1ex., 14.VII, 金井)
 役勝；(1ex., 12.VII, 大迫)
 油井岳；(2exs., 17.VII, 大迫) (1♂, 17.VII, 桐野)
33. リュウキュウムラサキ *Hypolimnas bolina* Linnaeus
 田検；(1♀, 16.VII, 東)
 山間；(1♂1♀, 14.VII, 米沢)
 山間での1♂はバラオ型に近い。また、1♀は赤斑が入る。
34. イシガケチョウ *Cyrestis thyodamas* Boisduval
 役勝；(1♀, 12.VII, 東)
 油井岳；(2♂♂, 17.VII, 桐野)
35. スミナガシ *Dichorragia nesimachus* Boisduval
 油井岳；(2♂♂1♀, 20.VII, 米沢) (1♂, 21.VII, 東)
 当地での採集のみ。
36. アカボシゴマダラ *Hestina assimilis* Linnaeus
 油井岳；(1♂, 17.VII, 大迫) (1♂, 17.VII, 金井) (1♂, 17.VII, 東)
 (1♂1♀, 18.VII, 桐野) (4♂♂, 18.VII, 米沢) (1♀, 20.VII, 米沢)
 (1♂, 21.VII, 東)

VII ジャノメチョウ科 Satyridae

37. リュウキュウヒメジャノメ *Mycalesis madjicosa* Butler
 西仲間；(1ex., 14.VII, 桐野)
 役勝；(1ex., 12.VII, 金井) (1ex., 13.VII, 金井)
38. クロコノマチョウ *Melanitis phedima* Cramer
 役勝；(1♀, 15.VII, 桐野)
 ウスイロコノマを採集できなかった。どうしたのだろう。

VIII セセリチョウ科 Hesperiiidae

39. アオバセセリ *Choaspes benjaminii* Guérin-Ménéville
役勝；(1ex., 12.VII, 金井) (1♂, 16.VII, 桐野)
油井岳；(1ex., 17.VII, 大迫) (1♂, 17.VII, 桐野) (1♀, 17.VII, 東)
鹿児島県本土に比べ個体数の多さに驚く。午後1時頃、油井岳の薄暗い林道上では下草の葉裏に静止。アカミズキに強い訪花性を示す。
40. チャバネセセリ *Pelopidas mathias* Fabricius
阿木名；(2♂♂, 13.VII, 桐野) (1♂1♀, 14.VII, 桐野) (1ex., 17.VII, 金井)
市；(1ex., 20.VII, 金井)
篠川；(1ex., 18.VII, 金井)
田検；(3exs., 16.VII, 金井)
役勝；(1ex., 14.VII, 金井)
山間；(1ex., 15.VII, 大迫) (1ex., 15.VII, 金井)
41. クロセセリ *Notocrypta curvifascia* C.&R.Felder
役勝；(1♀, 15.VII, 金井)
油井岳；(1♂, 17.VII, 桐野)
薄暗い山地でも見られた。
42. オオシロモンセセリ *Udaspes folus* Cramer
阿木名；(1ex., 17.VII, 金井) (1♂, 幼虫3exs., 17.VII, 桐野)
(1♂, 18.VII, 桐野) (1♂, 18.VII, 米沢)
篠川；(1ex., 18.VII, 金井)
山間；(1♂, 15.VII, 金井) (幼虫1ex., 15.VII, 桐野)
幼虫は葉を巻いた巢中に静止している。成虫は食草をあまり離れず、午後4時以降活動が活発になる。食草のゲットウは民家に栽培されていることが多く、本種も集落内でも観察された。

以上、7月12日～7月21日までの奄美大島における採集、目撃記録である。ただし、リスト中の地名のうち、地図上の上役勝(新村)と下役勝は合わせて役勝と表記している。

学名及び種の配列は全て「原色日本蝶類図鑑」(保育社)によったが、37.リュウキュウヒメジャノメの種名、学名については独立種として記載のある「原色日本蝶類生態図鑑(Ⅳ)」(保育社)に従った。

参考文献

- 川副昭人・若林守男(1985)原色日本蝶類図鑑。保育社。
福田晴夫・他(1984)原色日本蝶類図鑑(Ⅳ)。保育社。

(きりのあつこ)

甲虫の採集記録

小野 雅幸・藤田 寛

今回、甲虫屋は果実トラップ・灯火採集を中心に、主に奄美大島南部で採集を行った。朝はバナナを焼酎につけた果実トラップを見まわり、昼は宿舎を出発して山を登り、夜は灯火採集を行った。果実トラップは八津野林道・新村の周辺・油井岳で行った。これではスジブトヒラタクワガタやアマミヒラタクワガタが主に見られ、アマミネプトクワガタやリュウキュウノコギリクワガタも少数ながら見られた。灯火採集は、油井岳・湯湾岳・八津野林道・新村にて行ったが、天候が崩れたためまともな採集ができた日は少なかった。また、樹液の出ている木を見まわったが、そこではスジブトヒラタクワガタやアマミヒラタクワガタが見られた。中央林道や油井岳では、OBの溝口氏にビーティングを教えていただき、カミキリ等を採集した。朽ち木崩しもやるつもりだったが、ハブが恐かったためにほとんど行わなかった。

この合宿では、時期的に昆虫の数がすくなかったのか、思うように採集ができなかった。最後に、お世話になった地元の方々に紙面を借りてお礼申し上げたい。

〔藤田〕

鞘 翅 目 COLEOPTERA

I ハンミョウ科 Cicindelidae

1. アマミハンミョウ *Cicindela ferriei* Fleutiaux
湯湾岳；(3exs., 15.VII, 小野)

II オサムシ科 Carabidae

2. オオアオモリヒラタゴミムシ *Colpodes buchamani* Hope
湯湾岳；(4exs., 14.VII, 小野)
3. コアトワアオゴミムシ *Chlaenius hamifer* Chaudoir
湯湾岳；(1ex., 14.VII, 小野)

上記2種は灯火に飛来したものを採集した。

III クワガタムシ科 Lucanidae

4. リュウキュウノコギリクワガタ *Prosopocoilus dissimilis dissimilis* (Boileau)
新村；(1♂, 13.VII, 小野) (1♀, 15.VII, 小野)
油井岳；(1♂1♀, 18.VII, 米沢)
湯湾岳；(1♂2♀♀, 14.VII, 小野) (1♂1♀, 14.VII, 藤田)
5. アマミヒラタクワガタ *Dorcus platymelus elegans* (Boileau)
神屋；(1♂, 18.VII, 溝口) (1♂, 20.VII, 小野)
(1♂1♀, 20.VII, 藤田) (1♂, 21.VII, 小野)
八津野林道；(1♂, 16.VII, 小野) (1♀, 19.VII, 小野)
油井岳；(1♂, 21.VII, 小野)

6. スジプトヒラタクワガタ *Dorcus metacostatus* Kikuta
 神屋; (1♂, 20.VII, 藤田)
 新村; (3♀, 19.VII, 小野)
 八津野林道; (1♀, 14.VII, 小野)
 油井岳; (1♂, 21.VII, 小野)
7. アマミネブトクワガタ *Aegus laevicollis taurulus* Didier
 新村; (1♀, 16.VII, 小野) (1♀, 19.VII, 中村)
- IV コガネムシ科 Scarabaeidae
8. フチトリアツバコガネ *Phaeochrous emarginatus* Castelnau
 八津野林道; (1ex., 17.VII, 小野)
9. マルエンマコガネ *Onthophagus viduus* Harold
 見里; (6exs., 18.VII, 小野)
 牛糞から得られた。
 湯湾岳; (1ex., 14.VII, 藤田)
 灯火に飛来したものを採集した。
10. セスジカクマグソコガネ *Rhyparus azumai* Nakane
 湯湾岳; (2exs., 14.VII, 小野)
11. コセスジカクマグソコガネ *Rhyparus amamianus* Nakane
 湯湾岳; (1ex., 14.VII, 小野)
 上記2種は共に灯火に飛来したものを採集した。
12. オキナワシロスジコガネ *Rolyphylla schoenfeldti* Brenske
 新村; (1♂, 20.VII, 小野)
13. アマミヒメクロコガネ *Sophrops kawadai* (Nomura)
 湯湾岳; (4exs., 14.VII, 小野) (1ex., 14.VII, 藤田)
14. フタスジカンショコガネ *Apogonia bicarinata* Lewis
 湯湾岳; (1ex., 14.VII, 藤田)
15. アマミヒロウドコガネ *Maladera amamiana* Nomura
 湯湾岳; (2exs., 14.VII, 小野) (1ex., 14.VII, 藤田)
16. オオシマドウガネ *Anomala chloroderma* Arrow
 湯湾岳; (1ex., 14.VII, 小野) (2exs., 14.VII, 藤田)
17. アマミムシスジコガネ *Anomala edentula amamiana* Nomura
 八津野林道; (1ex., 17.VII, 小野)
18. サンカクスジコガネ *Anomala triangularis triangularis* Schönfeldt
 湯湾岳; (3exs., 14.VII, 小野)
19. リュウキュウオオハナムグリ *Protaetia lewisi leachi* Y.kurosawa
 油井岳; (1ex., 16.VII, 小野) (2exs., 18.VII, 小野)
20. リュウキュウツヤハナムグリ *Protaetia pryeri oschimana* (Nonfried)
 阿木名; (1ex., 21.VII, 中村)
 油井岳; (2exs., 17.VII, 金井) (1ex., 18.VII, 小野)
 上記2種は樹液または果実トラップにて採集した。

21. コカブトムシ *Eophileurus chinensis irregularis* Prelli
 新村; (1♂, 12.VII, 小野)
 八津野林道; (1♂1♀, 12.VII, 小野) (1♀, 17.VII, 小野)
 油井岳; (1♂1♀, 21.VII, 小野)
 V タマムシ科 Buprestidae
22. アヤムネスジタマムシ *Chrysodema lewisii* E.Saunders
 阿木名; (1ex., 21.VII, 中村)
 油井岳; (1ex., 20.VII, 米沢)
 VI コメツキムシ科 Elateridae
23. シロモンサビキコリ *Agrypnus scutellaris* (Candèze)
 八津野林道; (1ex., 17.VII, 藤田)
24. オオフタモンウバタマコメツキ *Paracalais larvatus* Candèze
 湯湾岳; (1ex., 14.VII, 藤田)
 上記2種は灯火に飛来したものを採集した。
25. オオナガコメツキ *Elater sieboldi* Candèze
 油井岳; (1ex., 17.VII, 金井)
 果実トラップにて採集した。
 湯湾岳; (2exs., 14.VII, 小野) (2exs., 14.VII, 藤田)
 灯火に飛来したものを採集した。
 VII ケシキスイムシ科 Nitidulidae
26. オオメアカヒラタケシキスイ *Trimemus adpressus* Murray
 油井岳; (1ex., 18.VII, 小野)
27. アカマダラケシキスイ *Lasiodactylus pictus* (MacLeay)
 神屋; (1ex., 21.VII, 藤田)
 油井岳; (1ex., 18.VII, 米沢)
28. ナミモンコケシキスイ *Cryptarcha strigata* (Fabricius)
 油井岳; (3exs., 18.VII, 小野)
29. ヨツボシケシキスイ *Librodor japonicus* (Motschulsky)
 神屋; (2♂♂1♀, 21.VII, 小野) (1♂, 21.VII, 藤田)
 八津野林道; (1♂, 19.VII, 小野)
 油井岳; (2♂♂1♀, 21.VII, 小野)
 上記4種は、全て樹液または果実トラップにて採集した。
 VIII テントウムシ科 Coccinellidae
30. クリサキテントウ *Harmonia yedoensis* (Takizawa)
 湯湾岳; (2exs., 14.VII, 小野)
31. ニジュウヤホシテントウ *Epilachna vigintioctopunctata* (Fabricius)
 阿木名; (1ex., 21.VII, 中村)
 IX ゴミムシダマシ科 Tenebrionidae
32. ヒメクロルリゴミムシダマシ *Metactisa nagaii* Nakane
 湯湾岳; (1ex., 14.VII, 小野)
 X ハムシダマシ科 Lagriidae

33. ヒゲブトハムシダマシ *Luprops orientalis* (Motschulsky)
 西仲間; (1ex., 20.VII, 小野)
 湯湾岳; (1ex., 14.VII, 藤田)
 X I カミキリムシ科 Cerambycidae
34. ホソガタヒメカミキリ *Ceresium elongatum* Matsushita
 湯湾岳; (2exs., 14.VII, 小野)
35. オキナワゴマフカミキリ *Mesosa pictipes miyamotoi* Hayashi
 油井岳; (1ex., 18.VII, 小野)
 上記2種は灯火に飛来したものを採集した。
36. アヤモンチビカミキリ *Sybra ordinata subtesserata* Breuning
 中央林道; (3exs., 21.VII, 藤田)
 油井岳; (4exs., 21.VII, 藤田)
37. ヒメナガサビカミキリ *Pterolophia leiopodina oshimanensis* Breuning
 油井岳; (1ex., 21.VII, 藤田)
38. オキナワキボシカミキリ *Psacothea teneburosa maculata* Breuning
 新村; (1ex., 19.VII, 藤田)
 油井岳; (1ex., 21.VII, 藤田)
39. オオシマヤハズカミキリ *Uraecha oshimana* Breuning
 油井岳; (1ex., 21.VII, 藤田)
 上記4種は、全て伐採木のピーティングによって得られた。
40. タカサゴシロカミキリ *Olenecamptus formosanus* Pic
 見里; (1ex., 18.VII, 泊)
 昼間、自動販売機にとまっていたものを採集した。前夜、明かりに飛来したものと
 思われる。
41. オビレカミキリ *Euseboides matsudai* Gressitt
 油井岳; (1ex., 21.VII, 藤田)
 伐採木のピーティングによって得られた。
 X II ハムシ科 Chrysomelidae
42. オオミドリサルハムシ *Platycorynus japonicus* (Jacoby)
 油井岳; (1ex., 18.VII, 米沢)
 X III ソウムシ科 Curculionidae
43. シロアナアキソウムシ *Hesychobius vossi* (Chûjô)
 中央林道; (1ex., 21.VII, 藤田)
 油井岳; (1ex., 21.VII, 藤田)

クワガタムシ科の学名、及び種の配列は検索入門クワガタムシ(保育社)に従った。それ以外の甲虫は原色日本甲虫図鑑II~IV(保育社)に従った。

参考文献

上野俊一・他(1984~1985)原色甲虫図鑑(II)~(IV).保育社.
 岡島秀治・山口 進(1988)検索入門クワガタムシ.保育社.

(おの まさゆき・ふじた ひろし)

トンボの採集記録

牛ノ瀨 孝

奄美合宿において以下のトンボを採集したので報告する。

ト ン ボ 目 ODONATA

均翅亜目 ZYGOPTERA

I イトトンボ科 Agrionidae

1. リュウキュウベニイトトンボ *Ceriagrion latericum* Lieftinck
役勝; (1♀, 15.VII, 溝口)
2. アオモンイトトンボ *Ischnura asiatica* Baurer
役勝; (1♂1♀, 14.VII, 牛ノ瀨)

II モノサシトンボ科 Platycnemididae

3. モノサシトンボ *Copera annulata* Selys
役勝; (1♂, 15.VII, 牛ノ瀨)

III カワトンボ科 Calopterygidae

4. リュウキュウハグロトンボ *Matrona basilaris japonica* Foerster
西仲間; (5♂♂2♀♀, 6.VII, 牛ノ瀨)
湯湾岳; (1♂2♀15.VII, 小野)

不均翅亜目 Anisoptera

IV オニヤンマ科 Corduregasteridae

5. ミナミヤンマ *Chlorogomphus brunneus costalis* Asahina
西仲間; (1♀, 18.VII, 牛ノ瀨) (1♀, 20.VII, 米沢)
役勝; (1♂, 20.VII, 牛ノ瀨)

V ヤンマ科 Aeschnidae

6. ミルンヤンマ *Planaeschna milnei* Selys
油井岳; (3♀♀2♂♂, 17.VII, 牛ノ瀨) (1♀, 16.VII, 泊)

VI トンボ科 Libellulidae

7. オオシオカラトンボ *Orthetrum triangulare melania* Selys
西仲間; (2♂♂1♀, 16.VII, 牛ノ瀨)
8. ウスバキトンボ *Pantala flavescens* Fabricius
新村; (1♂, 20.VII, 牛ノ瀨)
9. ハネヒロトンボ *Tramea virginia* Rambur
西仲間; (2♂♂, 21.VII, 牛ノ瀨)
10. ベニトンボ *Trithemis aurora* Brauer
新村; (1♀, 12.VII, 牛ノ瀨)

参考文献

石田昇三 (1969) 原色日本昆虫生態図鑑II トンボ編. 保育社.

(うしのはま たかし)

植物の観察報告

泊 信義・小崎 ジュン・坂口 志保

南国の島“奄美”はまさに夏であり、豊かな自然と温かい地元の方々の親切が私達を受け入れてくれた。しかし、ハブという危険な存在が脳裏から離れることはなく、油断できなかった。が、幸いにして合宿中にはハブとのトラブルはなかったのである。

さて、普段の活動として、私達は標本を目的とする採集ではなく、図鑑を手にして歩き回り目に止まった植物を同定したり、先輩方に和名を教えてもらったりしている。

奄美においても「奄美の植物を肌で感じたい!」という方針で、新村、西仲間、見里、加計呂麻島、のほんのわずかな地域を歩いては同定する毎日であった。しかし、奄美のイメージとして原生林を期待していただけに人工林がよく目に付いたのがショックだった。でも、私達が加計呂麻島に行った日、レンタカーで中央林道に行かれた本会OBの溝口氏の話によるとおもしろい植物があったという。今度奄美に行くときは、まず中央林道から行きたいと思う。

また、今回は移動手段が乏しかったことや、ハブが生息しているなどの理由からラン科植物を認めることが困難であった。この他にもアマミトンボらしきものを目撃したが、同定の決め手を欠いたことから記載を省いた。奄美大島特産のアマミエビネと着生蘭、腐生蘭の類を目撃できなかったのが残念である。

ここに記載するリストは50種以上の植物を同定したうち自分達なりに自信の持てるものである。しかし、まだまだ未熟者なので片寄りや誤りが見受けられると思う。そこは大いに諫言していただきたい。

種子植物門 SPERMATOPHYTA

単子葉植物綱 MONOCOTYLEDONEAE

I ヒガンバナ科 Amaryllidaceae

1. ハマオモト *Crinum asiaticum* L. var. *japonicum* Baker
(7月20日 加計呂麻島)

II イネ科 Poaceae

2. エノコログサ *Setaria viridis* (L.) Beauv.
(7月20日 加計呂麻島)

3. ダンチク *Arundo donax* L.
(7月12~20日 新村, 西仲間)

4. リュウキュウチク *Pleiblastus linearis* (Hack.) Nakai
(7月17日 西仲間)

III ガマ科 Typhaceae

5. ヒメガマ *Typha angustifolia* L.
(7月20日 加計呂麻島)

IV ショウガ科 Zingiberaceae

6. ゲットウ *Alpinia speciosa* (Wendl.) K.Schum.
(7月20日 加計呂麻島)

V ラン科 Orchidaceae

7. カゴメラン *Goodyera hachijoensis* Yatabe var. *matsumurana* (Schltr.) Ohwi
(7月17日 油井岳)
8. ナンゴクネジバナ *Spiranthes sinensis* (Pers.) Ames var. *sinensis*
(7月17日 油井岳)

この種は造成間もない舗装道路のふき付け作業の行われた法面に生えていた

9. ユウコ克蘭 *Liparis formosana* Reichb.fil.
(7月16, 18日 西仲間, 7月17日 油井岳)
10. カクチョウラン *Phaius tancarvilleae* (Banks) Blume
(7月16, 18日 西仲間, 7月17日 油井岳)
11. トクサラン *Calanthe gracilis* Lindl. var. *venusta* (Schltr.) F.Maek.
(7月16, 18日 西仲間, 7月17日 油井岳)
12. ツルラン *Calanthe furcata* Batem.
(7月16, 18日 西仲間, 7月17日 油井岳)

この種はちょうど開花期に訪れたため、発見、同定が容易であった。また、近似種のリュウキュウエビネ、ヒロハノカランを探索したが目撃にはいたらなかった。

VI タコノキ科 Pandanaceae

13. アダン *Pandanus odoratissimus* L.fil.
(7月19日 西仲間)

双子葉植物綱 DICOTYLEDONEAE

I モウセンゴケ科 Droseraceae

1. コモウセンゴケ *Drosera spathulata* Labill.
(7月13日 新村)

II クワ科 Moraceae

2. アコウ *Ficus superba* (Miq.) Miq. var. *japonica* Miq.
(7月20日 加計呂麻島)

3. ガジュマル *Ficus microcarpa* L.fil.
(7月16, 17, 19日 西仲間)

III マメ科 Leguminosae

4. ハマナタマメ *Canavalia lineata* (Thunb.) DC.
(7月18日 里見)
5. ギンゴウカン *Leucaena leucocephala* (Lam.) de Wit
(7月15日 名瀬)
6. クロヨナ *Pongamia pinnata* (L.) Pierre
(7月18日 見里)
7. デイゴ *Erythrina variegata* L.
(7月18日 西仲間)

IV マタタビ科 Actinidiaceae

8. シマサルナシ *Actinidia rufa* (Sieb. et Zucc.) Planch. ex Miq.
(7月20日 加計呂麻島)

V テリハボク科 Clusiaceae

9. フクギ *Garcinia subelliptica* Merr.
(7月15日 加計呂麻島)

ガジュマルの傍で1本だけ見受けたが、半野生化したものと考えられる。

VI トウダイグサ科 Euphorbiaceae

10. アカメガシワ *Mallotus japonicus* (Thunb.) Muell. Arg.
(7月12~20日 新村)

VII モチノキ科 Aquifoliaceae

11. クロガネモチ *Ilex rotunda* Thunb.
(7月15日 西仲間)

VIII ミツバウツギ科 Staphyleaceae

12. ゴンズイ *Euscaphis japonica* (Thunb.) Kanitz
(7月12日 新村)

IX ブドウ科 Vitaceae

13. エビヅル *Vitis thunbergii* Sieb. et Zucc.
(7月20日 加計呂麻島)

X アオイ科 Malvaceae

14. フヨウ *Hibiscus mutabilis* L.
(7月17日 西仲間)

サキシマフヨウの可能性もある。

15. オオハマボウ *Hibiscus tiliaceus* L.
(7月16, 17日 西仲間, 7月18日 見里, 7月20日 加計呂麻島)

XI イイギリ科 Flacourtiaceae

16. イイギリ *Idesia polycarpa* Maxim.
(7月18日 西仲間)

XII ミソハギ科 Lythraceae

17. シマサルスベリ *Lagerstroemia subcostata* Koehne
(7月18日 西仲間)

XIII ノボタン科 Melastomataceae

18. ノボタン *Melastoma candidum* D. Don
(7月12~20日 新村, 7月16, 18日 西仲間)

XIV ヒルギ科 Rhizophoraceae

19. オヒルギ *Bruguiera gymnorrhiza* (L.) Lam.
(7月15, 17日 西仲間)

20. メヒルギ *Kandelia candel* (L.) Druce
(7月15, 17日 西仲間)

XV サクラソウ科 Primulaceae

21. ハマボッサ *Lysimachia mauritiana* Lam.
(7月18日 見里)

- X VI ガガイモ科 Asclepiadaceae
22. サクララン *Hoya carnos* (L.fil.) R.Br.
(7月17日 西仲間)
- X VII アカネ科 Rubiaceae
23. コンロンカ *Mussaenda parviflora* Miq.
(7月15日 湯湾)
- X VIII ヒルガオ科 Convolvulaceae
24. グンバイヒルガオ *Ipomoea pes-caprae* (L.) Sweet
(7月17日 西仲間)
- X IX ムラサキ科 Boraginaceae
25. モンバノキ *Argusia argentea* (L.fil.) Murata
(7月18日 見里)
- X X クマツヅラ科 Vervenaceae
26. シチヘンゲ *Lantana camara* L. var. *aculeata* (L.) Moldenke
(7月20日 加計呂麻島)
栽培されてできた種子が何らかの形でそこに野生化したものと考えられる。
27. クサギ *Clerodendrum trichotomum* Thunb.
(7月15日 名瀬)
- X X I ナス科 Solanaceae
28. メジロホオズキ *Solanum biflorum* Lour.
(7月20日 加計呂麻島)
- X X II キク科 Compositae
29. ウスベニニガナ *Emilia sonchifolia* (L.) DC.
(7月20日 加計呂麻島)

シダ植物 PTERIDOPHYTA

- I ウラジロ科 Gleicheniaceae
1. ウラジロ *Gleichenia japonica* Spr.
(7月16日 西仲間)
- II ヘゴ科 Cyatheaceae
2. ヘゴ *Cyathea spinulosa* Wall. ex Hook.
(7月16, 18日 西仲間)
3. モリヘゴ *Cyathea lepifera* (J.Sm. ex Hook.) Copel.
(7月16, 18日 西仲間)
- III シシガシラ科 Blechnaceae
4. ヒリュウシダ *Blechnum orientale* L.
(7月18日 西仲間)
5. コモチシダ *Woodwardia orientalis* Sw.
(7月20日 加計呂麻島)

※ 学名は，種子植物は“日本の野生植物（平凡社）”，シダ植物は“日本のシダ植物図鑑（東京大学出版会）”にそれぞれ従った。

参考文献

初島住彦編（1986）鹿児島県植物目録．鹿児島植物同好会．

倉田 悟・中池敏之編（1979）日本のシダ植物図鑑（日本シダの会）1．東京大学出版会．

倉田 悟・中池敏之編（1985）日本のシダ植物図鑑（日本シダの会）4．東京大学出版会．

倉田 悟・中池敏之編（1987）日本のシダ植物図鑑（日本シダの会）5．東京大学出版会．

佐竹義輔・他編（1981）日本の野生植物 草本Ⅲ．平凡社．

佐竹義輔・他編（1982）日本の野生植物 草本Ⅰ，Ⅱ．平凡社．

佐竹義輔・他編（1989）日本の野生植物 木本Ⅰ，Ⅱ．平凡社．

（とまり のぶよし・こざき じゅん・さかぐち しほ）

1991年屋久島秋合宿の報告

堂園 隆男・光永 佳奈枝

1991年10月2日から10月6日までに屋久島で生物研究会合宿を行ったので、その報告を下記に示す。

○メンバー

牛ノ濱孝・永田武志・米沢俊彦・
大迫正規・坂口志保・瀬戸口芳成・藤田寛・堂園隆男・光永佳奈枝。

○日程とコース

10月2日(水) : 部室集合(7:00) 鹿児島港(8:00) [フェリー屋久島]
宮之浦港(12:30) 尾之間(13:52)
↓
尾之間に宿を取り、各自の計画に沿って採集・観察を行う。
10月6日(日) : 尾之間(10:56) 宮之浦港(13:00) [フェリー屋久島]
鹿児島港(17:30) 部室解散(18:30)

※コースの中では自動車、はフェリー、はバスを表す。

○天気

屋久島は「1ヶ月に35日雨が降る」と例えられる程雨の多い島にもかかわらず、合宿期間中5日に小雨が降ったほかは、毎日晴天が続いたのはラッキーだった。

ちょうど実りの秋の季節で、色づいた木の実や葉は植物の種類を見分けるのに役立ったし、目の保養にもなった。また気温もちょうどよく、過ごしやすい毎日だった。

2日/☀ 3日/☀ 4日/☀ 5日/☀↑ 6日/☀

○感想

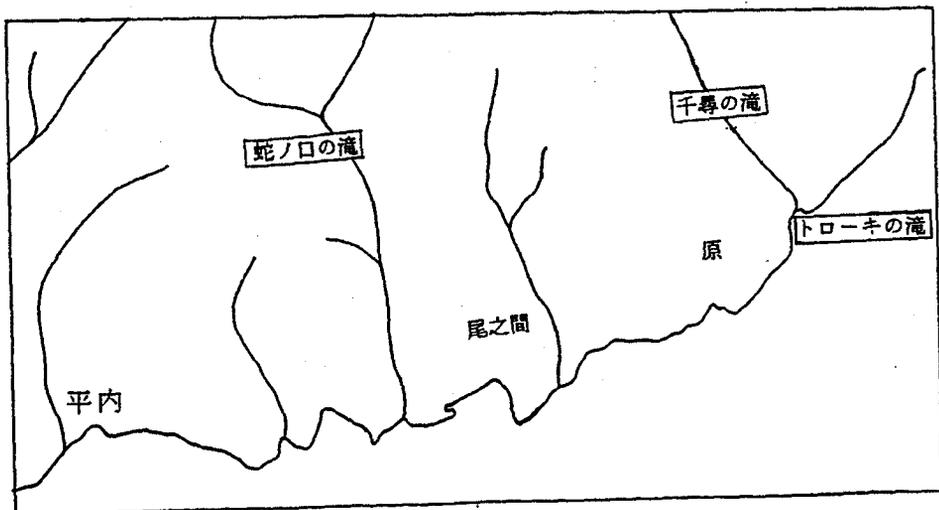
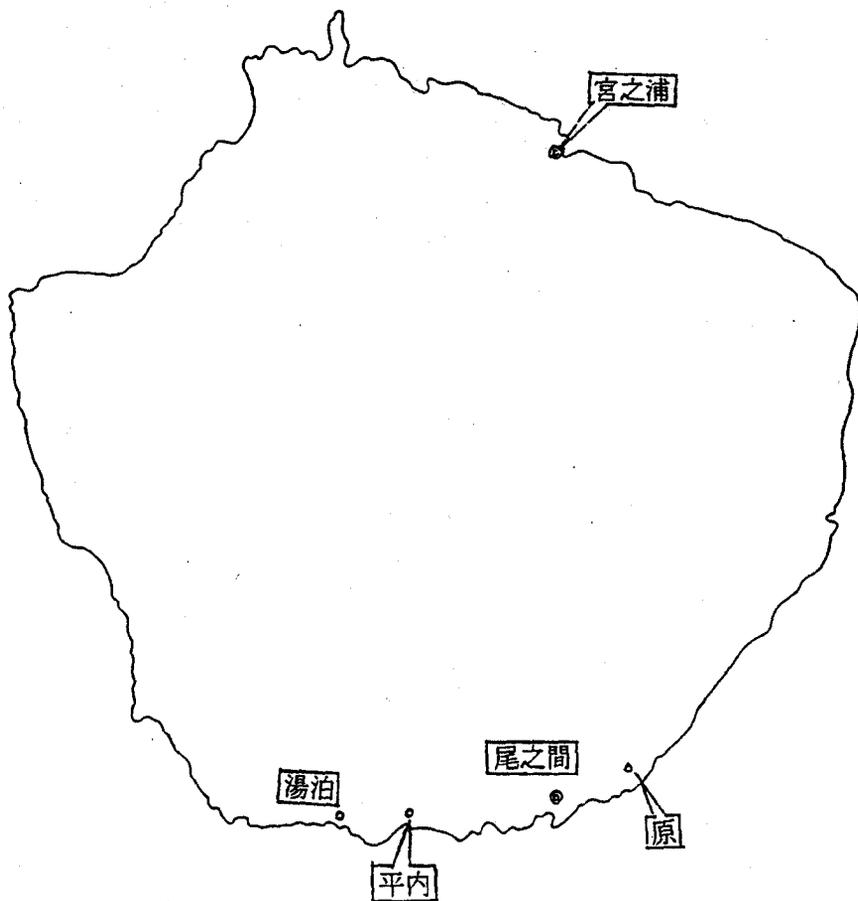
私は今回の合宿で、滝の周りの植物を観察しようと思い、蛇ノ口滝・千尋滝・トロオキの滝等を目的地として植物観察を行った。後半の2つの滝には、時間やら天気やらの都合で近くまで行けなかったのだが、蛇ノ口滝へは1日かけて行くことができた。そして、途中の山道でのランの種の多さと、滝のそばの岩々にクロミキゴケだと思われるものが一面に生えていた光景とは、何となく自然の魅力を感じた。

合宿中、平地や海岸での採集・観察を優先させた為、宮之浦岳に登れなかったのは残念だった。やはり屋久島で山へ登るには、登山だけを目的に来るのが良いと思った。

終わりに、岩川宏区長をはじめ、宿泊先の尾之間でお世話になった方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

(どうぞの たかお・みつなが かなえ)

鹿児島県 熊毛郡 屋久島



蝶の採集記録

大迫 正規

今回の秋合宿は、原生林がなおも存在し続けるあの屋久島である。合宿の一週間程前、本島をかなりの規模の台風が襲撃して、出発がいかなるものになるか心配したが、実際はこの台風によりかなりの迷蝶が本土に流されてくるという思いがけない状況になった。

採集において、主に海岸沿いの道路を徒歩でできる限り遠くまで活動してみるという主旨であった。というのも、バスで移動すると両バス停留所間の絶好のポイントを逃してしまふ恐れがあったからである。ところが、なんといてもたかが徒歩である。おまけに安全面を考慮して、日を繰り返しての活動が禁止され、行動範囲の縮小に拍車がかかった。

事前の調査で挙げられた蝶の数からして、かなりの種類が存在しているのが分かったにもかかわらず、実際採集したのは一割にもみたくないという悲惨な結果であった。簡略な活動内容は次に述べるとして、全体としては結果がおもわしくなかったが、まあ満足のいくものとなった。是非、もう一度来てみたい場所である。

下記が活動内容を簡略にまとめたものである。

10月2日-この日は宿に着いたばかりで、まずは周辺をまわってみようということになり、素晴らしい秋晴れの中を、捕虫網を片手に同行の米沢先輩と山の方角へ向かって行った。果樹園の広がる中、ツマベニチョウなどを採集し、夕刻に帰宿する。

10月3日-この日は朝から気温が適度にあり、宿を中心にしてかなり遠くまで遠征してみる。そして近くに簡素な漁港を見つけ、そこへ下るまでの道が絶好のポイントであることを発見した。ちょうど道両端に木が生い茂っていて、道全体が日陰となり、気温が程よく低くなっていて、傍らに川も流れていて、湿度も程よくあった。そこで、多数のツマベニチョウが飛んでいるのを目撃したが、これといった収穫はなかった。

10月4日-この日は休憩ということで、昨日の漁港で釣りをすることにした。しかし、収穫はなく、屋久島の魚に餌をまいただけであった。釣りの最中、糸を垂らす私の目をアオスジアゲハが飛来する。

↓(鯛ノ川)へ訂正

10月5日-今日は植物担当班と合流し、鯛川沿いの林道から千尋滝へ行くことにした。この日はいつ雨が降ってもおかしくないぐらいの天気で、小雨に降られることも度々あった。千尋滝の展望台付近でかなりの数の蝶の飛来が確認され、ここでカラスアゲハを、下山途中でイシガケチョウを採集する。

10月6日-この日が合宿最終日で、皆が帰る準備をする中、私は米沢先輩のアドバイスにより、前述の尾之間漁港までの道を時間ぎりぎりまで今回の目的であるリュウキュウムラサキの採集のため頑張ることにした。もう帰らないといけないという時、目前を本蝶が飛来し、奮闘すること10分余、やっとの思いで採集に成功し、満足しながら鹿児島への帰路につく。

以上で秋合宿は幕を閉じた。

今回は、蝶担当班が私ひとりであったため、知識不足が大いに影響し、満足いくような採集報告ができないのが残念であるが、前の紀行文もどきの文章を、蝶担当班の各々の日の活動記録としていただきたい。

なお、この記録に協力していただいた先輩方や、期間中にお世話になった屋久島の方々にも、この場を借りて感謝の意を述べたい。

採集した蝶のリストは次のとおりである。

鱗 翅 目 LEPIDOPTERA

チョウ亜目

I アゲハチョウ科 Papilionidae

1. アオスジアゲハ *Graphium sarpedon* Linnaeus
尾之間；(1♂, 3. X, 大迫)
2. ナガサキアゲハ *Papilio memnon* Linnaeus
千尋滝；(1♂, 5. X, 大迫)
3. ミヤマカラスアゲハ *Papilio maackii* Menetries
尾之間；(2♀♀, 3. X, 大迫) (1♀, 3. X, 米沢)

II シロチョウ科 Pieridae

4. ツマベニチョウ *Hebomoia glaucippe* Linnaeus
尾之間；(1♂, 2. X, 米沢) (1♂, 3. X, 大迫) (2♂♂, 3. X, 米沢)
(1♂, 4. X, 米沢)

III シジミチョウ科 Lycaenidae

5. ムラサキシジミ *Narathura japonica* Murray
尾之間；(1ex., 3. X, 大迫)

IV マダラチョウ科 Danaidae

6. カバマダラ *Anosia chrysippus* Linnaeus
尾之間；(1♀, 3. X, 米沢) (1♂, 4. X, 米沢)

V タテハチョウ科 Nymphalidae

7. ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius* Linnaeus
千尋滝；(1♂, 5. X, 大迫)
8. ヒメアカタテハ *Cynthia cardui* Linnaeus
尾之間；(1ex., 2. X, 大迫)
9. アカタテハ *Vanessa indica* Herbst
尾之間；(2exs., 3. X, 大迫)
10. リュウキュウムラサキ *Hypolimnas bolina* Linnaeus
尾之間；(7♂♂, 3. X, 米沢) (1♂, 4. X, 米沢) (1♂, 6. X, 大迫)
原；(1♂, 4. X, 米沢)

平内；(2♂♂, 5. X, 米沢)

11. イシガケチヨウ *Cyrestis thyodamas* Boisduval
千尋滝；(2exs., 3. X, 大迫)

VI ジャノメチヨウ科 Satyridae

12. クロコノマチヨウ *Melanitis phedima* Cramer
原～尾之間；(1ex., 4. X, 米沢)

VII セセリチヨウ科 HesperIIDae

13. キマダラセセリ *Potanthus flavum* Murray
湯泊；(1ex., 5. X, 米沢)
14. イチモンジセセリ *Parnara guttata* Bremer & Grey
尾之間；(1ex., 3. X, 大迫)
15. クロセセリ *Notocrypta curvifascia* C.&R.Felder
尾之間；(1ex., 2. X, 大迫) (1ex., 3. X, 大迫)

学名及び種の配列は全て「原色日本蝶類図鑑」(保育社)によった。

参考文献

川副昭人・若林守男(1985)原色日本蝶類図鑑. 保育社.

(おおさこ まさき)

1991年 与論島の蝶

金井 賢一

1991年6月10日～17日筆者は理学部生物学科の与論島での臨海実習に参加した。今回はその際筆者が採集したものに加え、学科全体での採集も合わせて報告する。

今回は筆者にとって初めての隆起珊瑚礁の島であった。天候は6月までに連続40日以上も雨が降らず、節水を呼びかける町役場の放送があったほどである。臨海実習のスケジュールでは6月12日が野外での採集、15日は自由研究となっていたので主にこの2日間が活動日であった。

この採集の中で筆者が一番注目したのは、ナミエシロチョウが全体で4♂♂3♀♀も採られたことである。しかも傷がみられるのは1♂だけであり、後は全て完品であった。迷蝶と思われる本種が完品でこれだけの数採られたのは何故だろうか。最近琉球列島を北上する昆虫がみられるので、本種もその一つであろうか。

また去年はネットに当たるほどいたらしいオオゴマダラが1♂しか採れていないのも不思議である。乾燥のせい、時期のズレであるか、原因ははっきりしない。

以下にリストを記す。

採集地に関しては12日のものは全て与論町西区であるが、その他の日は個人が自由時間に採集した為不明な標本が多かったので、敢えて記さないでおく。

採集者の記録は筆者のほか山根正気（ヤマネ セイキ）先生、及び採集者未記入のものがあるので、その場合には記さないでおく。

標本は、筆者のものを除き鹿児島大学理学部生物学科が所有する。

I アゲハチョウ科 Papilionidae

1. ジャコウアゲハ *Atrophaneura alcinous* Klug
(1♀, 12.VI, 金井)
(1♀, 15.VI)
2. アオスジアゲハ *Graphium sarpedon* Linnaeus
(4♂♂2♀♀, 12.VI)
(5♂♂, 15.VI) (1♂, 15.VI, 金井)
3. アゲハ *Papilio xuthus* Linnaeus
(1♀, 12.VI)
(1♂, 15.VI, 山根) (1♂, 15.VI, 金井)
4. シロオビアゲハ *Papilio polytes* Linnaeus
<白帯型>
(4♂♂3♀♀, 12.VI)
(2♂♂, 15.VI) (1♀, 15.VI, 金井)
<赤斑型>
(1♀, 12.VI)
(3♀, 15.VI) (1♀, 15.VI, 金井)

5. ナガサキアゲハ *Papilio memnon* Linnaeus
 (4♂♂2♀♀, 12. VI)
 (5♂♂2♀♀, 15. VI) (1♂1♀, 15. VI, 金井)

II シロチョウ科 Pieridae

6. モンキチョウ *Colias (Colias) erate* Esper
 (1ex., 11. VI, 金井) (1ex., 12. VI)
 (1♀, 15. VI, 金井) (5exs., 15. VI) (1♀, 15. VI) (1♀, 15. VI, 山根)
7. ウラナミシロチョウ *Catopsilia pyranthe* Linnaeus
 (1♂1♀, 15. VI, 金井) (1♀, 15. VI, 山根)
8. ウスキシロチョウ *Catopsilia pomona* Fabricius
 <ムモン型>
 (1♂, 12. VI, 金井)
 (1♂, 15. VI, 金井) (1♂, 15. VI)
 <ギンモン型>
 (2♀♀, 12. VI)
 (1♂, 15. VI, 金井)
 <中間型>
 (2♂♂1♀, 15. VI) (2♂♂, 15. VI, 金井)
9. キチョウ *Eurema (Terias) hecabe* Linnaeus
 (3♂♂4♀♀, 12. VI)
 (1♂1♀, 15. VI)
10. ナミエシロチョウ *Appias (Catophaga) paulina* Crammer
 (2♂♂2♀♀, 15. VI) (1♂1♀, 15. VI, 金井) (1♂, 15. VI, 山根)
11. モンシロチョウ *Pieris (Artogeia) rapae* Linnaeus
 (1♂4♀♀, 12. VI)
 (1ex., 15. VI)
12. ツマベニチョウ *Hebomoia glaucippe* Linnaeus
 (5♂♂1♀, 12. VI) (1♂, 12. VI, 金井)
 (4♂♂2♀♀, 15. VI) (2♂♂, 15. VI, 金井)

III シジミチョウ科 Lycaenidae

13. ウラナミシジミ *Lampides boeticus* Linnaeus
 (1ex., 11. VI, 金井)
14. アマミウラナミシジミ *Nacaduba kurava* Moore
 (1♂, 12. VI)
 (2♂♂, 15. VI)
15. ヤマトシジミ *Pseudozizeeria maha* Kollar
 (2exs., 11. VI, 金井)
 (1♂, 15. VI) (1♂, 15. VI, 金井)

16. タイワンクロボシジミ *Megisba malaya* Horsfield

(1♂, 11. VI, 金井)

(1♂, 15. VI, 山根) (1♀, 15. VI, 金井)

IV マダラチョウ科 Danaidae

17. カバマダラ *Anosia chrysippus* Linnaeus

(1♀, 12. VI)

(3♀♀, 15. VI) (2♂♂, 15. VI, 金井) (2♂♂, 15. VI, 山根)

18. オオゴマダラ *Idea leuconoe* Erichson

(1♂, 12. VI)

19. アサギマダラ *Parantica sita* Kollar

(1♀, 12. VI)

(1♂, 15. VI)

20. リュウキュウアサギマダラ *Ideopsis (Radena) similis* Linnaeus

(1♀, 12. VI)

V タテハチョウ科 Nymphalidae

21. ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius* Linnaeus

(4♀♀, 12. VI)

(3♂♂1♀, 15. VI) (1♀, 15. VI, 金井)

22. リュウキュウミスジ *Neptis hylas* Linnaeus

(3♂♂2♀♀2exs., 12. VI)

(4exs., 15. VI)

23. ルリタテハ *Kaniska canace* Linnaeus

(1♂1♀, 12. VI)

(8exs., 15. VI) (2exs., 15. VI, 山根) (1ex., 15. VI, 金井)

24. ヒメアカタテハ *Cynthia cardui* Linnaeus

(1ex., 14. VI, 山根)

(1ex., 15. VI, 金井) (1ex., 15. VI)

25. アカタテハ *Vanessa indica* Herbst

(3♀♀, 12. VI)

(1ex., 15. VI, 金井)

26. イシガケチョウ *Cyrestis thyodamas* Boisduval

(4♀♀2exs., 12. VI)

(6exs., 15. VI)

今回の実習では個体の破損度について注目したので、下にまとめておく。
表の中ではA；完品個体，B；多少傷のある個体，C；大破個体を表す。

種名		A	B	C	計
1. ジャコウアゲハ			2 ♀♀		2 ♀♀
2. アオスジアゲハ		9 ♂♂ 1 ♀	1 ♂	1 ♀	10 ♂♂ 2 ♀♀
3. ナミアゲハ		1 ♂ 1 ♀	1 ♂		2 ♂♂ 1 ♀
4. シロオビアゲハ	白帯型	1 ♂	2 ♂♂ 1 ♀	3 ♂♂ 3 ♀♀	6 ♂♂ 5 ♀♀
	赤斑型	2 ♀♀	3 ♀♀		5 ♀♀
5. ナガサキアゲハ		4 ♂♂	6 ♂♂ 5 ♀♀		10 ♂♂ 5 ♀♀
6. モンキチョウ		6 exs. 3 ♀♀	1 ex.		7 exs. 3 ♀♀
7. ウラナミシロチョウ		1 ♀	1 ♂ 1 ♀		1 ♂ 2 ♀♀
8. ウスキシロチョウ	ムモン型	3 ♂♂			3 ♂♂
	ギンモン型	1 ♂ 1 ♀	1 ♀		1 ♂ 2 ♀♀
		中間型	4 ♂♂ 1 ♀		
9. キチョウ		2 ♂♂ 4 ♀♀	2 ♂♂ 1 ♀		4 ♂♂ 5 ♀♀
10. ナミエシロチョウ		3 ♂♂ 3 ♀♀	1 ♂		4 ♂♂ 3 ♀♀
11. モンシロチョウ		2 ♀♀	1 ♂ 1 ♀ 1 ex.	1 ♀	1 ♂ 4 ♀♀ 1 ex.
12. ツマベニチョウ		10 ♂♂ 2 ♀♀	2 ♂♂ 1 ♀		12 ♂♂ 3 ♀♀
13. ウラナミシジミ		1 ex.			1 ex.
14. アマミウラナミシジミ		1 ♂	2 ♂♂		3 ♂♂
15. ヤマトシジミ		1 ♂ 3 exs.			1 ♂ 3 exs.
16. タイワンクロボシシジミ		2 ♂♂	1 ♀		2 ♂♂ 1 ♀
17. カバマダラ		3 ♂♂ 4 ♀♀	1 ♂		4 ♂♂ 4 ♀♀
18. オオゴマダラ		1 ♂			1 ♂

19. アサギマダラ	1 ♀	1 ♂		1 ♂ 1 ♀
20. リュウキュウアサギマダラ		1 ♀		1 ♀
21. ツマグロヒョウモン	3 ♂♂ 5 ♀♀	1 ♀		3 ♂♂ 6 ♀♀
22. リュウキュウミスジ	3 ♂♂ 1 ♀ 5 exs.	1 ♀ 1 ex.		3 ♂♂ 2 ♀♀ 6 exs.
23. ルリタテハ		1 ♂ 1 ♀ 8 exs.		1 ♂ 1 ♀ 10exs.
24. ヒメアカタテハ	3 exs.			3 exs.
25. アカタテハ	1 ♀ 1 ex.	1 ♀	1 ♀	3 ♀♀ 1 ex.
26. イシガケチョウ	4 ♀♀ 6 exs.			4 ♀♀ 8 exs.

正確な定量的調査でないため雌雄差などから厳密なことをいうのは避けるが、上の表から読めることを挙げてみる。

5. ナガサキアゲハ

本種は林縁の梢を飛び回る姿をよく見かけた。そのため翅が欠けてしまったりスレてしまった個体が多いのだろう。

8. ウスキシロチョウ

大坪・田中(1988)は与論における本種を土着・非土着不明として扱っている。今回採れた8♂♂3♀♀のうち、ギンモン型の1♀を除いて全て完品であったことは一時的発生、あるいは土着の可能性を示すと思われる。

9. ナミエシロチョウ

数は4♂♂3♀♀と少なかったものの、個体の鮮度からは上のウスキシロチョウと同じことがいえるだろう。しかし本種には集団移動の性質が知られているので、他の土着・非土着不明の島との比較を行わねば、簡単には言えないであろう。

12. ツマベニチョウ

他の島と同じように♂が♀に比べて非常に多い。

*全般的にシジミチョウの数が少ないが、これは採集者の目につかなかった為であろう。筆者はヤマトシジミなどを多く目撃していた。

最後になりましたが、データの発表を快く了承して下さった山根正気先生に御礼申し上げます。

参考文献

川副昭人・若林守男(1985)原色日本蝶類図鑑。保育社。

大坪修一・田中 洋(1988)鹿児島県産蝶類・市町村島別分布表。Satsuma, 37(100):223-238.

(かない けんいち)

1991年 鹿児島県本土の迷蝶

金井 賢一 編

今シーズン生研部員の採集した県本土の迷蝶を報告する。

1. アマミウラナミシジミ

9・10 笠沙町姥 5♂♂米沢, 1 ex.金井

10・10 佐多町田尻 1 ex.目撃2♀♀金井

2. カバマダラ

9・5 坊津町久志 1 ex.目撃桐野・米沢

9・10 大浦町小浜 1♀米沢

11・3 坊津町泊川 1 ex.目撃金井

3. スジグロカバマダラ

6・20 鹿児島市新港 1 ex.目撃桐野

10・6 開聞山麓 1 ex.目撃金井

ママコノシリヌグイ(タデ科)を吸蜜していた。

4. メスアカムラサキ

9・3 魚見岳 1♂桐野, 1♂米沢

9・10 笠沙町仁王崎 1♀目撃米沢

9・22 魚見岳 1♂目撃桐野

5. リュウキュウムラサキ

9・10 大浦町小浜 1♀(台湾型)米沢

9・22 魚見岳 1 ex.目撃桐野

10・6 開聞山麓 1♀(台湾型)金井

10・7 鹿児島市山田町 1♀(赤斑型)米沢

採卵及び標本保管を本会OB守山泰司氏に依頼した。

10・8 牧園町 1♂(フィリピン型)金井

ソバの花を吸蜜していた。

10・10 佐多町田尻 1♀(フィリピン型)金井

カキの腐果にきていた。

佐多町大泊 1 ex.目撃金井

6. アオタテハモドキ

9・10 笠沙町仁王崎 1♀米沢

9・30 大浦町小浜 1♂牛ノ瀨

10・30 鹿児島市五ヶ別府町 1♀(低温型)米沢

7. ウスイロコノマチョウ

9・17 鹿大構内 1♀米沢

9・18 鹿大構内 1♀(夏型)米沢

10・2 鹿児島市唐湊 1 ex.金井 ←訂正 (唐夷 唐湊)

真夜中, 自動販売機の明かりにきていた。

(かない けんいち)

[短報]

ミナミコモンマダラ，鹿児島市の記録

桐野 敦子

鹿児島市平川町でミナミコモンマダラ *Tirumala hamata* Macleay の死体を採集をした。国内での本種の採集例は比較的少ないと思われるので報告する。

1991年10月4日，桐野直子（筆者の母）が本種の右前翅を持ち帰った。採集地は同町のソバ畑の一角である。ソバ畑は北側に広がり，採集地の南側の縁はスギの幼木，クヌギや常緑カシ類などが混生する林と接している。翌朝5日，筆者と母が再度採集にいったところ畑の南側の端にあたるサトイモの植えてある畝の縁でさらに左前翅，右後翅を採集した。ツマグロヒョウモン（♀），アゲハなどの翅とともに散らばっていたものである。いずれも胴体は見つからなかった。周辺はサトイモのほか，マリーゴールド，ケイトウなどの花が栽培されており，これらの花にはイチモンジセセリ，アゲハ，ツマグロヒョウモン，ムラサキシジミなどがさかんに飛来していた。

両前翅のうち左前翅亜外縁と後縁に破損がみられる。また，右後翅第10室付近に穴があいており，後角部にも破損がみられる。前翅の翅形などより雄であると思われるが，破損で性斑が確認できないため正確な雌雄は判別できない。

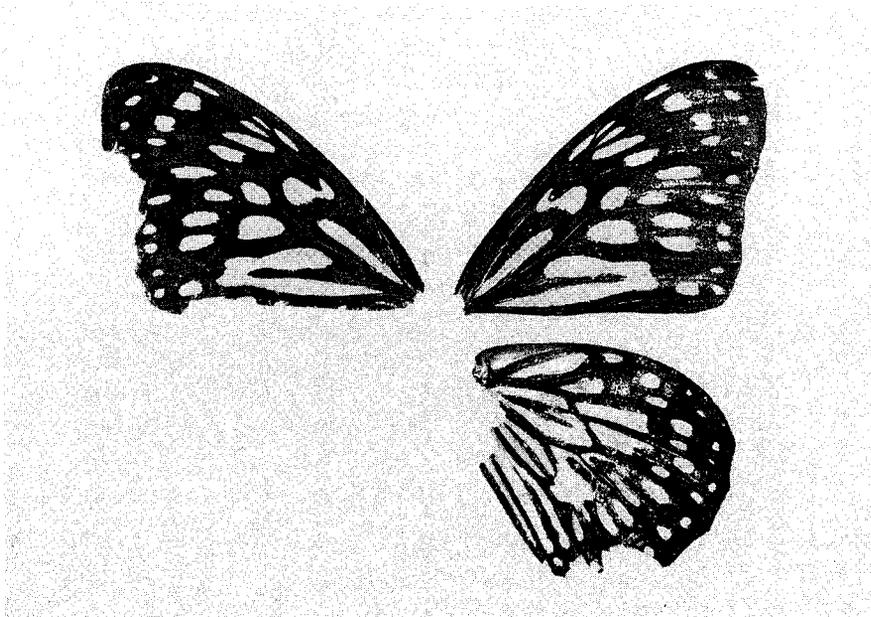
参考文献

川副昭人・若林守男（1985）原色日本蝶類図鑑．保育社．

福田晴夫・他（1984）原色日本蝶類生態図鑑（I）．保育社．

矢田 脩・森下和彦（1981）図鑑東南アジア島嶼の蝶 第2巻．ブラバック社．

（きりの あつこ）



ニシムネアカアリの羽アリの飛翔

濱田 しおり

1991年6月26日(火)鹿児島市城山においてニシムネアカオアリ *Camponotus hemichlaena* Yasumatsu & Brown (2♂♂) の羽アリを採集し、ニシムネアカオアリの結婚飛行があったことを確認した。

この種の近縁種であるムネアカオアリ *C. obscuripes* Mayr の羽アリの時期は5~6月頃と記載されているが(原色生態アリの図鑑), ずいぶん遅い時期のようなので報告する。1991年は梅雨期に雨の日が多く晴れ間が少なく、この気象条件が影響を及ぼしたのではないかとも考えられる。

参考文献

森下正明. 他編(1988)日本産アリ類和名一覧. 日本蟻類研究会: 32.

森下正明. 他編(1991)日本産アリ類の検索と解説(II). 日本蟻類研究会: 37-44.

馬場喜敬. 栗林慧(1970)原色生態アリの図鑑. 明玄書房刊.

(はまだ しおり)

タイリクバラタナゴを永田川で採集

米沢 俊彦

筆者は鹿児島市内を流れる永田川でタイリクバラタナゴ *Rhodeus ocellatus ocellatus* (Kner) を採集したので報告する。

1991年7月4日, 鹿児島市山田町付近で採集を行った際, 全長47.5mmの本亜種雌1個体を得た。本亜種を得た場所は流れのゆるやかな中流域で, 岸際の湿生植物のあいだより手網によって採集された。

鹿児島県には本来, タナゴ亜科魚類はアブラボテのみしか分布していなかったこと。また, 生時は腹鰭の前縁部に明瞭な白色部が認められたことから, 今回採集された個体はタイリクバラタナゴと同定した。

タイリクバラタナゴは近年各地で分布を広げているが, これまで鹿児島県における分布は川内川水系からのみ知られていた(君塚, 1976; 長田, 1980)。今回, 永田川で得られた個体が定着したものか, あるいは偶然得られたものかは今後の調査が必要であろう。

参考文献

川那部浩哉・水野信彦編(1989)日本の淡水魚. 山と溪谷社.

君塚芳輝(1976)鹿児島県高松川の魚類相(予報). 淡水魚, (2): 105-110.

益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編(1984)日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会.

長田芳和(1980)タイリクバラタナゴ—純血の危機. 日本の淡水生物—侵略と攪乱の生態学(川合・川那部・水野編), 147-153. 東海大学出版会.

オニヌマエビを薩摩半島で採集

米沢 俊彦

筆者は鹿児島県坊ノ津町久志川でオニヌマエビ *Atyopsis spinipes* (Newport) を採集した。九州本土における採集例は珍しいと思われるので報告する。

1991年11月2日、久志川の河口より500mほど上流で頭胸甲長5.3mmの本種1個体を得た。

採集を行った場所は、川幅約1.5m、水深50cmほどで水流は比較的早く、底質は転石からなり、所々湿生植物が生えていて水面に覆いかぶさっていた。本個体は、このような湿生植物の下から手網によって採集することができた。

なお、この時得られたエビ類は、ヤマトヌマエビ、トゲナシヌマエビ、ヒラテテナガエビ、ミナミテナガエビであった。

参考文献

林 健一 (1989) 日本産エビ類の分類と生態 (45). 海洋と生物, (60): 40-43.

三宅貞祥 (1982) 原色日本大型甲殻類図鑑 (I). 保育社.

(よねざわ としひこ)

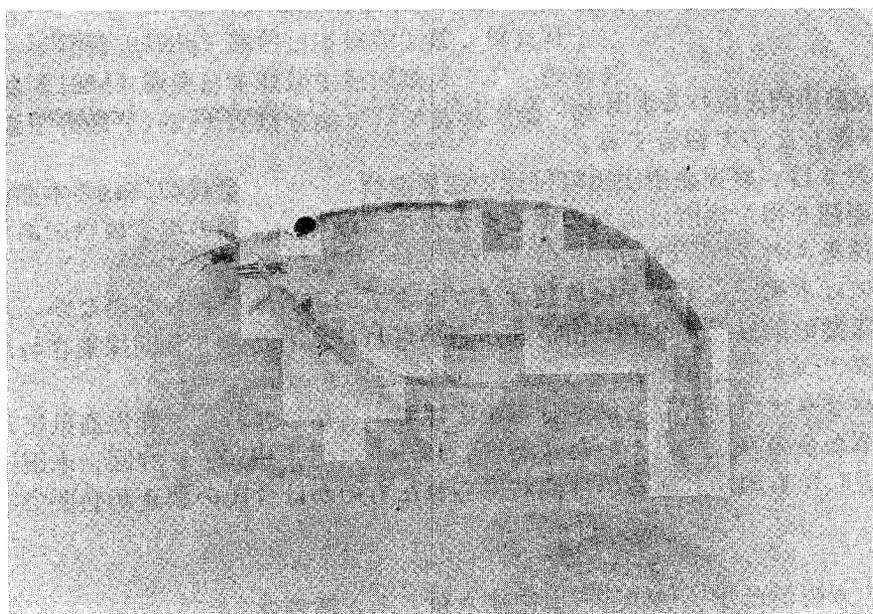


Fig. 久志川産オニヌマエビ

会 員 名 簿

1992年3月1日現在

- 顧問：山下 智（教養部生物学教室教授）
主将：米沢 俊彦（理学部生物学科2年）
副主将：中村 理樹（農学部獣医学科2年）
泊 信義（大学院農学研究科1年）
池 俊人（水産学部水産学科4年）
大平原一高（農学部畜産学科4年）
松野 知之（水産学部水産学科4年）
小野 雅幸（農学部獣医学科3年）
金井 賢一（理学部生物学科3年）
野村 弥生（教育学部中学理科3年）
の場 亮平（農学部獣医学科3年）
吉谷 弘子（理学部生物学科3年）
牛ノ濱 孝（理学部生物学科2年）
桐野 敦子（教育学部小学校課程2年）
小崎ジュン（農学部生物環境学科2年）
永田 武志（理学部生物学科2年）
濱田しおり（農学部生物環境学科2年）
米山 章一（理学部数学科2年）
大迫 正規（教育学部小学校課程1年）
坂口 志保（理学部生物学科1年）
瀬戸口芳成（農学部生物生産学科1年）
堂園 隆男（教育学部小学校課程1年）
東 幸希（教育学部小学校課程1年）
藤田 寛（教育学部中学理科1年）
光永佳奈枝（理学部生物学科1年）

編集後記

まず、今回のLEBEN22号を予定どおり出すことができまして嬉しく思っております。今号は前号までの編集の形を思い切って変えてみました。はっきり言って以前より見にくくなった点もあるかと思いますが、本誌を読まれる方々や後輩たちが南西諸島に採集にいかれる時に、少しでも役に立っていただけたらと思っております。

これからも生物研究会はそれぞれが海に、山に、川に、島に、野原に生き物を求めて出ていき続けることでしょうし、今後もLEBENは書く人達がいればずっと続いていくことでしょう。今後のLEBENが鹿児島および南西諸島のさまざまな生物についてのよりよい研究誌になってゆくことを願って後輩たちにこの仕事をゆずりたいと思います。

また生物研究会の発行物のバックナンバーの販売を行っております。ご希望の方にはリストを100円でお送りしております。長4型の封筒と100円分の切手を同封のうえ本会宛にお知らせください。

(中村)

—LEBEN 22号—

鹿児島大学生物研究会会誌

発行日：1992年4月1日

編集者：中村理樹・大迫正規・藤田 寛

発行者：米沢俊彦

発行所：鹿児島大学生物研究会

(〒890 鹿児島市郡元一丁目21-24 鹿児島大学学友会内)

印刷所：明るい窓社

正 誤 表 (1992年2月20日)

P	L	誤	正
14	9	データ欠落	猿ヶ城; (1ex., 4.V, 米沢)
19	35	山間; (目撃1♀, 4.VII, 米沢)	山間; (目撃1♀, 14.VII, 米沢)
37	26	鯛川	鯛ノ川
45	37	鹿児島市唐湊	鹿児島市唐湊

追 加 (1992年3月30日)

13	17	16. クロヒカゲモドキ	16. クロヒカゲ
		<i>Lethe marginalis</i> Motschulsky	<i>Lethe diana</i> Butler